

令和5年度

第2回 松塩筑安曇地区教科用図書採択研究協議会

会議録

日時 令和5年7月25日（火） 午後2時

場所 松本市役所 議員協議会室

松塩筑安曇地区教科用図書採択研究協議会

○ 司会 皆様、こんにちは。

定刻になりましたので、ただいまから、令和5年度第2回松塩筑安曇地区教科用図書採択研究協議会を開催いたします。

私は、事務局を担当いたします、松本市教育委員会学校教育課長の清沢卓子と申します。議事に入るまでの間、会議の進行役を務めますので、よろしくお願いいたします。

本日の協議会委員のご出欠ですが、生坂村の小林教育長職務代理者、東筑摩塩尻校長会の佐倉会長が、欠席されるというご連絡をいただいています。

現在まで、委員30名のうち28名のご出席をいただいて、過半数を超えていますので、協議会規約第8条第2項の規定により、協議会が成立することをご報告申し上げます。

本日の会議は、お手元にあります会議次第に沿って進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

初めに当協議会の「伊佐治会長」からごあいさつを申し上げます。

○ 伊佐治会長 松塩筑安曇地区教科用図書採択研究協議会の会長でございます、松本市教育長の伊佐治裕子です。第2回協議会の開会にあたりまして、ごあいさつを申し上げます。

本日は、暑さ厳しき折、またお忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、5月29日開催の第1回協議会で、本地区において令和6年度から使用する教科用図書の採択に関する事項につきまして、協議、決定をいただき、6月8日には、84名の先生方を調査研究委員として委嘱いたしました。

本日ご出席の各教科委員長をはじめとする調査研究委員の皆様には、ご多忙の中、各委員会において熱心な調査研究を行っていただき、心より感謝申し上げます。

協議会委員の皆様方には、調査研究委員の先生方の調査研究の成果である「調査研究報告書」と、皆様が教科書見本を実際にご覧になって受けられた印象やお考えなどを比較、検討していただきながら、慎重な協議を進めていただきたいと思います。

本日は、当協議会の構成市村の小学生が使用する教科書を選定する重要な会議でございます。子どもたちにとって最良の教科書を選定できますよう、ご協力をお願いし、私からのごあいさつといたします。

○ 司会 ありがとうございます。

当協議会規約第8条第1項の規定に基づき、議長は会長が務めることになっております。

ここからは伊佐治会長に進行をお願いいたします。

- 伊佐治議長 それでは、規約の規定によりまして、議長を務めます。

本日の議事が円滑に運びますよう、皆様方のご協力をお願いします。

本年度は、令和6年度から使用する小学校の教科書を選定する必要があります。

つきましては、円滑な協議を図るため、あらかじめ本日の協議の方法をお諮りしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

この後、調査研究委員長から、教科・種目ごとに開催された委員会でまとめていただいた、調査研究結果を報告していただきます。

各教科を3つのブロックに分け、委員長の入れ替えを行いながら進めますので、ご了承いただきたいと思っております。

第1ブロックは、国語、書写、社会及び地図。

第2ブロックは、算数、理科、生活、音楽及び図画工作。

第3ブロックは、家庭、体育（保健）、外国語（英語）及び道徳です。

調査研究結果の報告は、評価の高かった教科書を中心に、すべての教科書について説明をいただきます。

また、今回から、教科によって、実際の教科書の写真等を使用しての説明があります。

委員の皆様は、その内容を協議して、教科・種目ごとに1種類の教科書を選定していただきます。以上の方法で議事を進めたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

ご異議ないようですので、ただいまの説明のとおり、議事を進めます。

それでは協議に入ります。

最初に、「令和6年度から使用する小学校教科用図書の選定について」を協議いただきます。なお、本日配布した会議資料の1、2ページですが、参考としてご覧いただきたいと思っております。

お手元の報告書に登載されている教科・種目の順番は、文部科学省の「小学校用教科書目録」の順番となっていることを申し添えます。

それでは、会議資料の掲載順に従って、教科ごとに調査研究結果書により、報告を受けることといたします。

なお、本日は13種目の教科書を選定することになりますので、時間の関係もありまして、1種目当たり報告、それから協議を含めて12分程度で進めていきたいと思っております。

で、ご協力をお願いいたします。

それでは、先ほどご承認いただきましたとおり、まず第1ブロックの国語から地図までの報告、協議を行います。

この後、委員長は、まず自己紹介をしていただきまして、その後、調査結果についてご報告をいただきます。

それでは、最初に国語から報告をお願いいたします。

- 清水委員長 こんにちは。明善中学校の校長の清水伸行と申します。このたび国語の選定委員会の委員長を務めました。それでは、国語の報告をいたしますが、よろしく願いいたします。

分かりやすく発表した方がよいと考え、今日は、写真を多めにして報告したいと思いますので、ご覧いただければと思います。

まず、国語の教科書は、3社の中から選ばせていただきました。

1社目が教育出版、2社目が東京書籍、3社目が光村図書、この3社でございます。国語の委員会で選考した結果、光村図書が一番よいのではという結論になりました。その理由を3つの観点からご説明させていただきたいと思います。

最初に、光村図書の一番優れている点、光村図書を選んだ理由の1つ目としては、児童が自ら課題を持ち、主体的に学習に取り組む主体的な学びが実現されるような工夫がされていることです。光村図書の報告書の1の3つ目の丸をご覧ください。教科の目標からの配慮のうちの3つ目の丸です。そこに単元の初めに「問いを持とう」を設定し、児童自らの問いや願いを持って主体的に学びに向かえるよう工夫されていると書かれていますが、実際の教科書の写真を見ながら、その具体例を見ていただければと思います。

これがそれぞれ3社、ちょっと小さくて見にくいのですが、3社でそれぞれにある教科書の学習の手引きというものです。ここには要するに児童が学習をする指針が示されているものですが、それぞれの教科書とも、最初に目当てを持って、学習の見通しを持ち、その後、それに取組んで学習を深める。そして、最後に振り返ってまとめ、最後に広がるというようになっています。要するに、ほかのいろんな生活の場面ですとか、他教科に広げてそれを使っていくというような、そんな流れでどれも書かれております。

ところが、光村図書だけ違うのが、これが光村の学習の手引きを大きくしたのですが、ここの最初に「問いを持とう」というものがあることです。光村図書の教科書だけがこの問いを明確にして、児童が自分なりの問いを持つことを大事に考え、それを自ら解決して

いくような、そんな学習過程が提示されています。自分なりの問いを持って主体的に学んでいく。問いを持っていくことが児童の追求のエネルギーを生み出して、本当の主体的な学びというところにつながっていくと考えた、この教科書の構成は、それぞれ県教委や市教委、文科省でも言われている主体的な学びという、その学習の方向性に合致している。そういう流れでつくっていただいているのかと感じます。現場の職員としてもこういうものがあると学習をつくりやすい。主体的な学びをつくりやすいという利点があると思います。

2つ目の理由としては、今度は1番の2番目の黒丸ですね。教科書全体を単元、コラム、特設単元で構成し、知識・技能と思考力・判断力・表現力等を適切に組み合わせて、言葉の力を確実に身につけられるように工夫されているという点です。

具体的に見てみますと、これが実際の5年生の教科書の構成になっています。最初に説明的文章、「想像力のスイッチを入れよう」という文章がありまして、この次にコラムとして「複合語」という、そんなコラムの欄があります。それで、さらにその次に「言葉を使い分けよう」という特設単元が設定されています。こんな構成になっておりまして、最初に出てきたこの説明文の中には幾つか複合語が出てきているわけですが、この段階ではまだその複合語というのが断片的な知識となっています。それをこのコラムの複合語の段階で系統的な知識として整理する学びが行われます。さらにそれを特設単元で生活の中で知識を活用する。実際の具体的な生活場面で使っていくというところへ広げていくような構成になっているという形になります。単に文章の中で出てきた言葉を知識として覚えるだけではなく、それを整理し、活用する活動を通して、知識・理解・思考力・判断力・表現力等が組み合わさって、だんだん力が伸びていくような、そんな工夫がされているところが2番目の工夫されている点かなと思います。

理由の3つ目ですが、今度は2の(5)にあります。イメージを豊かに広げる挿絵、写真、グラフ等が見やすさに配慮し、適切に配置され、児童の理解や思考を助けるよう十分配慮されているという点です。

これが1年生のクジラのところの挿絵ですが、見開きいっぱいにくじら雲が描かれておりまして、その上で楽しそうにしている子どもたちの様子が非常に分かって伝わってくる。本当に文学の中で児童のイメージを豊かにするための一助となっている挿絵になっているかなと思います。

これは6年の「やまなし」という教材のところですが、やまなしの川底の幻想的な雰囲気

気の挿絵がよく表しており、宮沢賢治の作品の世界観を理解する上で助けになっているかなと思います。

これは秋の夕べ、「枕草子」の古文の学習の単元のページですが、夕景に鳥の群れが美しい秋空の写真を提示することで、児童にとってなかなか理解しにくい古文、特に「枕草子」の秋の夕暮れの段のイメージを豊かにして、この古文の大きな理解の助けとなっている写真の撮影になっているかなと思います。

また、この光村図書の教科書には児童の思考を助けるような図を使った思考ツールというのが多く掲載されていまして、こうした思考ツールが掲載されていることで、各自の考えを整理したり、もともとの自分の考えの違いと比較したりする思考力、判断力という力を伸ばすためのこんなツールがしっかり描かれているかな。図として使われているかなというふうに思います。さらに教材の中の方にも、これは5年の「言葉の意味が分かること」という教材で、言葉の概念の違いというのが文章の中で出てきますが、その違いがここに図として載っかっているというようなところで、この教材を理解する上で大きな助けにもなっておりますし、同時に自身の思考を整理するためのモデルにもなっているのかなと思います。

こんな以上の3つの理由から、国語の委員会では光村図書の教科書が一番優れていると判断をいたしました。

それでは、次に、他社の教科書の優れた点について、触れていきたいと思います。

まず、東京書籍の説明をしたいと思います。東京書籍の選定理由書をご覧ください。

まず1つ目は、3の(2)にあります各単元の導入の「思い出そう」と各学年の巻末での「言葉の力」のつながりで、言葉の力を領域ごと、系統ごとに示し、単元相互の関連性や連続性が実感に出るよう十分工夫されているという点です。

具体的に見てみますと、これが実際の教科書の目次のところですが、この巻頭に各学年の巻頭ですが、「言葉の力のつながり」という見開きのページが設定されています。ここでは上の段に今の学年、5年生で学ぶ国語の力が書いてあり、下の段では前の学年、4年生で学習した力をそれぞれ領域ごと、系統ごとに対応するように表記してあります。4年生のときにはこういうことを学んだのだな、これを基にして今の5年生ではこういうことを学んでいくのだな、という単元相互の関連性や、それから連続性を実感しながら学ぶように工夫されています。学習のつながりを意識して学ぶことで学びの深まりが期待できるのではないかなと思います。

東京書籍、2番目に優れた点は、2の(4)にあります文字指導にも適した独自の教科書体を中心とし、文字が小さい箇所にはUD書体を使用したり、MIM（多層指導モデル）を取り入れたりするなど、学年発達に応じた十分な配慮がなされているという点、それから、3の5にありますワイドなイラストや写真で学習への意欲が高まるように工夫している、こんな点かなと思います。実際の教科書ですが、1年の教科書に出てくるこれが「ねこと根っこ」という单元ですが、1年生にとって、この小さい「っ」、根っこのはねる音、促音はなかなか理解が難しい箇所です。ねこと根っこという発音は理解ができるのですが、この音にならない小さい「っ」というこの表記がなかなかできないということがよく子どもつまずきとして見られるところです。この東京書籍では、こうした理解が難しい箇所、特別支援教育でよく使われているMIM（多層指導モデル）の考え方をういて、拍手のイラストと、それから実際の動作で音やリズムとして言葉を捉えさせたり、あるいは文字の隣に書いてある小さい丸があるのですが、赤丸と白丸の違いで、その言葉のリズムの違いというか、音の違いを示したりして、全ての児童に分かりやすいという工夫がされていて、こういうところで非常に見やすくなっているのかなと思います。

また、単元の最初には、こんなふうに見開きいっぱいの大きな写真が提示されて、その教材への興味・関心を引くような構成になっております。ワイドなイラストや写真で単元との出会いを演出する構成がなされているところが優れた点かなと思います。

以上が東京書籍の優れた点になります。

続いて、教育出版の優れた点を1つご紹介しますので、教育出版の選定報告書をご覧ください。

まず、1の2つ目の黒丸のところですが、児童の身の回りにある課題を取り上げることで、必要感を持って課題に関わり、学習を実生活へ広げ、多様な言語活動に取り組めるよう工夫されている、その点だと思います。これが4年生のメモの取り方の工夫の单元です。多くの学校で4年生の社会でごみ処理の学習をして、その際、ごみ処理場の見学を行うということが通例になっているかなと思います。そのごみ処理場の見学に合わせて教科書で「ごみ処理場でのメモの取り方」という单元を設けて実際に学んでいく。児童は実際に体験することなので、必要感を持ってメモの取り方を学んでいくことができます。さらにそのメモの取り方だけでは終わらずに、その後の単元に見学したことをまとめて、リーフレットにまとめるという学習を位置づけています。こうした单元構成によって、児童は生活の中にある課題から必要感を持って学び、実生活へ生かす活動を通して、話し合いですとか

報告、説明、パンフレット、ポスター、意見文など多様な言語活動に触れながら国語の力を伸ばすように工夫されています。

以上が教育出版の優れた点だと思います。

以上のことをもって、国語の委員会では光村の教科書を選定したいという結論になりますので、よろしく願いいたします。

○ 伊佐治議長 清水委員長、

プレゼンをつくっていただきましてありがとうございます。

それでは、皆さん、ご質問、ご意見がある場合は挙手の上、指名後、お名前をおっしゃってから発言をお願いいたします。

ご意見ありますでしょうか。

小山委員、どうぞ。

○ 小山委員 信州大学の小山です。

教えていただきたいのですが、今回GIGAスクール構想の中で、国語に限らず、それぞれの教科書を多様にQRコードを埋め込んでいるというところが特色かと思うんですけども、検定の中では、この紙面に出てくるものの評価しか行われていなくて、QRコードの裏側にある各教科書会社が出してくるデータについては、様々ないろいろな意見が今出されているかと思うんですけども、そのあたりについては委員会の方でどのような評価をされたのか、もしデータがあれば教えていただけたらと思います。

○ 清水委員長 QRコードに関しては、ちょっと今回触れられなかったのですが、どの教科書もかなりICTの活用というところに力を入れていたので、甲乙つけがたいという部分もあり、触れなかったのですが、数的には、光村図書の教科書が、QRコードを使っている数は一番多かったというところでは。

ただ、その内容については、それぞれ一長一短ありますので、ここでどこがいいかとか言えないのですが、全体的な傾向としては、どの教科書もQRコードを大事にしながら、ICT、そういったものの活用を生かした授業展開というのを狙っているつくりになっているかなと思います。

以上です。

○ 伊佐治議長 ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、この国語につきましては光村図書出版、こちらを選定することでご異議はあ

りませんか。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、国語は光村図書出版に決定をいたします。

それでは、清水委員長は引き続き書写について報告をお願いします。

- 清水委員長 それでは、書写の方も、同様にプレゼン形式で発表をいたします。

書写の方も教科書3社、国語と同じです。教育出版、東京書籍、光村図書、3社の教科書がありますが、国語の委員会で検討して、ふさわしいと思ったのが光村図書の書写の教科書になります。これについても、なぜ光村図書を選んだのかという理由を3点ご説明させていただければと思います。

まず1つ目ですが、書写の選定理由の光村図書のところをご覧いただければと思います。2番の(1)1教材1目標とし、その教材で扱う要素が焦点化して提示されており、児童の発達段階に応じた書く力が系統的、段階的に高められるように十分配慮されているというところがまず1つ目の理由です。

実際の教科書を見たところ、こんな形になります。これが書写を初めて行う3年生の教科書の単元配列をそれぞれ横の列で示しました。一番上が東京書籍、2段目が教育出版、一番下が光村図書という形になりますが、やっぱり3年生ですので、本当に書写は一番基本的な基本点画というところ、横画ですとか縦画、払い、はね、折れ、曲がりなど、書写の本当に基本的な要素を学んでいくわけですが、この光村図書のところを見ていただくと分かるように、光村図書は、その基本点画が1時間に1個ずつ出てきて、ここは横画、次は縦画、次は折れ、次は払い、ここでははねと点と一緒になんです、最後に曲がりという形で、この基本点画が1時間に1つずつできて、児童がスモールステップを踏みながら、段階的に書写の力を高めていけるような、そんな構成になっています。

それに対して、他社ですが、東京書籍の場合は横画が1時間に1個ですが、その次、縦画のところ縦画と点という2つ出てきまして、最後のところ、曲がり、そり、はねを1時間に3つぐらい覚えなきゃいけないところが出てきたり、教育出版の場合は、この力のところで折れとはねを同時に学習したり、ビルという字では曲がり、点と一緒に出てきたりという形で、1人1時間に1個ずつというのは、見たところ光村図書だけであったということでした。こうしたことから光村図書の教科書がより丁寧で、児童の学びに寄り添ったものになっているかなというふうに思いました。1時間に1つの基本点画の学習、初めて

毛筆を学ぶ児童にとって非常に悩みが明確で、段階的に書写の力の積み重ねができるという点において児童にとって非常に優しい構成になっているのかな。それがよさの1つになっているかなというふうに感じました。

2番目の理由ですが、4の1つ目の黒丸のところに書いてありますが、1、「考えよう」、2、「たしかめよう」、3、「いかそう」の学習段階が提示され、自ら発見した文字の原理原則を実際に書いて確かめるという課題解決型の学習が主体的に進められるよう十分配慮されているということです。

具体例を見てください。これが5年生の教科書にある部分の組立て用の教材です。教材の進め方というのが下にあるのですが、そこに考えようという部分がありまして、これはどういうことを考えるかということ、この2つのうち、アとイの2つの「道」という字を見て、字形が整っている方を選び、理由を話し合おうとあります。道という字はしんによくと首という字が離れてしまうと駄目ですよ。しんによくと首を近づけて書くとバランスよく書けますというように。要するに子どもたちに教えてしまうのではなくて、実際に子どもたちがこの2つの字を見比べながらどっちがいいのかな、どうすればバランスよく書けるのかなといった、子どもたちが自分から気づいたことを大事にして、それを書いて確かめる。そんな主体的な学びができるような構成になっているところが1つ工夫されている点かなと思います。

理由の3つ目としましては、4の2つ目の黒丸あります、1年の巻頭に「書写スタートブック」、6年に小学校で学習したことをまとめた「書写ブック」を設け、園や中学校との接続がスムーズに図れるよう十分に配慮されているところです。1年の教科書の最初にある「書写スタートブック」では、身の回りにある文字を探るところから書写が始まって、まずは文字に対する興味・関心を引くように構成されています。それから、途中の3年生のところには、初めて毛筆に触るということで、「毛筆スタートブック」というのが設定されています。ここでは毛筆の秘密というページから、毛筆って面白そうだなとか、書いてみたいなという毛筆への意欲をかき立てる内容となっております。最後、6年のところには、「書写ブック」というのが掲載されて、この6年間で書写の時間に学んだ学習内容がまとめられています。これによって学んだことを使って、日常生活、具体的な手紙ですとかはがきの書き方ですとか、そういうことに生かしたり、あるいは中学校への書写への意欲をかき立てたりすることに役立っているかなと思います。書写は、保育園、幼稚園、それから中学校での学習が途切れがちになってしまう学びですが、その学びの段差をでき

るだけ少なくして、円滑な学びの連携ができるような工夫がされているかなと思います。

以上、光村図書を選択した3つの理由をお話いたしました。

続いて、他社の優れた点をお話ししたいと思います。

まず、東京書籍の優れた点です。東京書籍の報告書をご覧ください。

3の(3)にあります日常生活の中から課題を見つける資料を提示し、リンクマークや生活に広げよう、学びを生かそう等により、習得した力を日常生活に生かす場面を設けることで児童の主体的な学びを促すよう十分配慮されている、こんな点です。東京書籍は特にこの書写の学びを日常生活の中で生かすというところに力を入れている教科書かなと思います。

教科書の具体例をお示しすると、これは3年生の教科書に出ている「実験したことを記録しよう」の単元になります。この見開きのページの右側の下のところに、こんな形でリンクマークというのがあって、これは理科の学習と関連させて学びますよということが明示されています。また、実際に理科の授業で自分たちが行う実験の内容を記録するという内容で、これは子どもたちが実際にやることなので、児童が必要感を持って実際に生かすことができる場面設定がされているということ。また、学んだこと、この上の方に「書写のかぎ」というのがありますが、この学んだことをどう生かしていくかということが明示されていて、児童の主体的な学びを促すような配慮がされていると思います。

また、別ページには、「はがきで伝えよう」という別の言語活動も行う単元も設定されるなど、生活の中から課題を持って、学んだことをその生活の中に生かしていく。児童の生活や意識というところに寄り添った、そんな学習ができるような配慮がなされている点が一番優れた点かなと感じました。

続いて、教育出版の優れた点をご説明したいと思います。

教育出版の報告書をご覧ください。

その3の(3)にあります巻頭には、学習したことを他の学習や他の生活の中で生かそうで、ノートや手紙での生かし方が具体的に掲載され、「つかむ」「考える」「書く」「確かめる」「振り返る」「生かす」「広げる」を位置づけ、どのように学ぶかを明確にして、児童の主体的な学習を促す単元展開になるように十分配慮されているという点です。

それが、教育出版の6年生の教科書の目次のページですが、まず下段の右半分のところには6年生で学習することが書かれています。そして、その下段の左半分にはほかの学習や生活で生かすことが一覧でまとめられています。このことで1年間どんな書写の力を身

につけて、そして、その力をどのような生活の場面で生かしていくかというのが一目瞭然になっている。児童が見通しを持って主体的に学んでいく助けになっているかなと思います。

また、6年生の教科書では、こんな次のような配列になっています。最初に「湖」という字の学習で、3つの部分の組立て方というのを勉強します。さらにその次に硬筆の学習で、3つの部分を持った字の組立て方を系統的に学びます。最後に、それを校外学習の「リーフレット」という単元で、その学んだことを生かして使っていくと、そんな構成になっています。学んだことを他の学習や生活へ具体的な生かし方を示しており、学びが知識としてとどまらずに、生活の中で生きる力として表現していくこと。それで活用していくことが、本当の主体的な学びなんだという学び方を実感できるような、そんなつくりになっているかなと思います。

また、1時間の学習の中でも、ここにあります最初に「考える」という部分があって、その次に、「ここが大切」という追求する場面があり、さらにそれを「振り返る」という場面があり、最後に「それを生活の中で生かそう」という場面があり、これでどのように子どもたちが学んでいけばよいか、その学び方がきちんと1時間の中に提示されていて、児童が教科書を使って主体的に学んでいける工夫がきちんとなされているところ、こんな主体的な学習を促す展開になっている。ここが教育出版の優れた点でないかなと考えました。

以上により、書写は、光村図書が一番よいのではないかと、そんな結論となりましたので、よろしくをお願いします。

○ 伊佐治議長 清水委員長、ありがとうございます。

それでは、ご意見がある方、挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見がございませんので、異議がないということで認めて、書写は光村図書出版に決定をいたします。

○ 清水委員長 ありがとうございます。

○ 伊佐治議長 それでは、次に社会に移ります。

社会についても3社から見本が送付されているということでもあります。

それでは、赤羽委員長、報告をお願いいたします。

○ 赤羽委員長 それでは、よろしくをお願いいたします。

芝沢小学校の赤羽秀明と申します。社会と地図の委員長ですが、よろしくお願いいたします。

私の方は、主に資料1の報告書に沿って説明をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

資料1、9ページ、10ページです。

東京書籍「新編 新しい社会」、教育出版「小学社会」、日本文教出版「小学社会」の3社の中から1つを推薦するということになります。

では、まず東京書籍の教科書について説明をさせていただきます。

まず、1の観点をご覧ください。

東京書籍ですが、教科の目標を達成するためには必要な内容が全部の教科書に的確に盛り込まれていました。中でも様々な仕事や活動に携わっている人、例えばここに出てくるのは歴史民俗資料館の服部さんの話がこの下の部分になります。それから、右側の方、パイナップル農家の新城さんのお話という形で、人物が写真入りで、しかもその地位や肩書というものが明記されていて、その人から学ぶというものをすごく重点的にされているのかなと思いました。共感的に人の生き方を理解して学べるように配慮がされていました。他社と比べてしまっただけではいけないのですが、他社は、人物、こうやって出てきますが、やはりイラストの人物とか、肩書や地位が明確でない方という場合もありまして、東京書籍が一番その人に迫った形の「〇〇さんのお話」という形で子どもたちの心に落ちるのかなと思います。

それから、2番、(1)の観点になります。ドラえもんの種類イラストが目印になっております。この4つです。キャラクターは他社も同じようにはありますが、ドラえもんという有名なキャラクターを使いながら、子どもたちになじみのよい1番、左上のタケコプターを使っているのが位置や広がり、2番、タイムマシンを使っているのが時間に着目、3番目は、のび太君としずかちゃんが一緒にいますが、人との関わりについて着目しています。そして、最後、「比べる」「分類する」「統合する」「関連づける」という社会的な大切な4つの働かせる「見方」「考え方」を各教科書、この右下にあります。タケコプターがありますので、位置や広がりに着目して、このページを見なさいというような形で、子どもたちにとって目印になる各ページが見開きの方でそういうふうになっているので、とても学習がしやすいということがあるのではないかと工夫がされていました。

それから、2の(3)の関係になります。各見開きページに学びのポイントによって学習活

動が例示されており、児童自らが主体的かつ連続的に学習が展開できるように配慮されています。この項目と関連して、3の(2)の観点もご覧ください。

3の(2)の観点が「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習の流れが小单元内で明示されており、児童は問題解決的に学習を進めやすく、単元の学習が途切れることなく連続的につながるように構成が工夫されています。社会科で大切にされる学習、問題解決的な学習というのがやはり社会科の大きな特色の教科にはなるかと思いますが、それについて自分たちでどこのページはどんなことをやればいいのかということができる。例えば学びのポイントというのは何かというと、学びのポイントというのは、「つかむ」という段階では主体的な学びに、「調べる」では対話的な学びに、さらに「まとめる」「いかす」では深い学びにつながる学習活動を重視し、現学習指導要領で重視する主体的、対話的で深い学びに単元を通すことでつながるような構成になるように工夫されています。

それから、3の(4)の観点になります。学年の学習内容に応じて、SDGs、国際理解等の今日的な課題の内容を取り上げ、また、生かす場面では、発表する、話し合う等の言語活動を重視し、児童の思考力、判断力、表現力が高まるように工夫されています。例えば防災・安全という課題については、3年では消防と警察の学習の終末に、安全な暮らしのために自分たちにもできることとして標語づくりの活動を入れる。4年では、「自然災害から暮らしを守る」の単元で、風水害を事例として人々の暮らしを守るための働きについて学習する。5年では、日本で起きた自然災害について、様々な事例を取り上げ、幅広く知識を深めるようにする。6年では、自然災害からの復旧や復興のための政治の働きについて、東日本大震災を事例に学習するといったように、今日的な問題も系統的に各学年で学習できるといった配慮がされています。

3の(5)の観点をご覧ください。

単元ごとの本文と、それに関する資料とが見開きのページの中でつながるように配列され、写真、地図等の資料から多様な読み取りや、それらを活用した学びが展開できるように工夫されています。

ちょっと見にくいですが、これ、皆さん、どこだか分かりますか。長野県松本市の四季ということで、弘法山古墳から見た四季が掲載されています。この東京書籍のバランスというのは真ん中、中央部分に本文が見出しとあって、特にUDフォントという形ではないのですが、左側に先ほど言った「社会的な見方・考え方」のところを「つかむ」、今は学習モデル、つかむ学習、そして、右下のところに学びのポイント、学習問題について予想

し、学習問題を立て、学習の見通しを持つという、このページではそれを行うというような形で、見開きのページの中で1時間、大体2ページずつ進むというような形の中で、しかも、資料の配置が上側、左側の上に春夏秋冬の写真、それから、右側には同じ3月のときの日本各地の写真を配置しながら四季がある日本という国についての学習問題、国土の気候の特色について学習モデルをつかむという学習が、本当に適切に配置というか、きれいな形で配置されていて、子どもたちが分かりやすいようになっております。他社の場合も、似たような場合はあるのですが、やはりちょっとページによってその具合が変わったりするので、子どもたちはページによって戸惑ったりはするかと思うのですが、東京書籍の場合には、それが本当にどのページを見ても適切に配置されているのではないかなと思います。

もう1ページご覧ください。

やはりこれは孀恋の高地の暮らしであります、年表があり、大きな写真があり、今度は右下にグラフがあります。というような形、そして人々のお話というような形で、本当にその配置が上手に配置されていて、子どもたちが学習活動に臨みやすいというような形が取られております。

あと、4の観点になりますが、前学年からの振り返りから導入し、当該学年の振り返りで締めくくるなど、学習内容や進め方に見通しを持てる態度の育成が丁寧に配慮されております。

また、東京書籍の特徴として、5年、6年が学年2冊の分冊になっておいて、それが児童の教科書の運搬において、このことはデジタル教科書になれば状況は変わるかと思いますが、現行の紙の教科書の場合には、重要なファクターになるかなというふうに思います。

続いて、教育出版「小学社会」について発表したいと思います。

2の(1)の観点として、学習対象とする社会事象に関わる写真が豊富に掲載され、また、特に6年生の歴史の部分ですが、モノクロ写真への着色など、写真資料を効果的に使用するなど、児童の興味や関心が高まるように配慮されております。これもご覧ください。

私も社会科、結構授業をやっているのですが、この写真を見たときは結構衝撃を受けまして、この上の写真の方、3枚並んだ写真がありますが、これって他の教科書だと白黒でしか多分見たことがない写真だと思うのですが、教育出版の場合は、これを52点、6年の歴史の中でカラー化、当時の状況や当時の資料を集めながら、一番適切なカラー写真として提示をしたと。なので、本当に6年生のこの教科書に関しては、本当にこの教育出版

は、よくできているなどは思うのですが、やはり全体としてどの判断としてどうかということになります。

それから、2の(5)の観点として、UDフォントが使用され、読みやすさに配慮されています。また、キーワードが適切に配置され、児童の追究を補助するように工夫されています。フォントが先ほどの東京書籍の場合とちょっと違って、読みやすいフォントにはなっています。東京書籍の場合も読みやすさでは十分かとは思いますが、よりUDフォントを多く使っているのが教育出版になります。

では、続けて、日本文教出版の「小学社会」にいけます。

1の観点として、教科の目標を達成するために必要な内容が的確に盛り込まれています。これは他も同様です。また、ICT機器を活用しながら調査活動を通して情報を適切に調べ、まとめる技能が身につけられるように調べ方を具体的に示す等の配慮がされているということで、ICT利用についてもとても充実しているかなという形がありました。全8種類のコンテンツ、動画やシミュレーション、スライドといったコンテンツが用意されており、私どもも委員会の方で調べましたが、教科書会社によって準備できている教科書会社と、まだそれが十分できてないところがあり、そのため、今回の場合にはそのところまで考慮ができておりません。なので、原則紙ベースでの資料での扱いという形での評価になっております。

それから、2の(5)の観点として、写真、グラフなどはカラーUDに配慮してつくられており、多くの児童にとって見やすいように配慮されています。特に図表にはドットや斜線等も活用し、より見やすいという工夫がなされています。これはご覧ください。

5年の2の(5)ですね。この左側の2番目のグラフを拡大したものが右側になりますが、山形県の10アール当たりの年間耕作時間の移り変わりになりますが、ただの帯グラフではなく、ドットが中に入っていて、どの子も分かりやすい。色だと識別が付きにくい場合でも、ドットを入れることによって、より分かりやすくするという工夫はかなり多くされておりました。

それから、3の(4)の観点として、今日的な課題としてSDGsに関連した内容が多く提示され、児童が社会の持続可能な発展に関わる問題を自分ごととして捉え、社会的な見方・考え方を働かせながら、意欲的に学ぶことができるように工夫されています。特にどの学年にも巻末にSDGsシールがつけられ、児童が意識づけて学べる工夫がされています。SDGsシールというのが3年から6年までどの学年の教科書も最後の巻末にあります。

して、SDGsに関する問題が出てくるところで自分でシールを貼って意識づけるようにする。SDGsに関して17項目を3年から6年までの4年間で全て取り扱えるというのが日本文教出版の特徴となります。

では、今、説明をしたように、3社それぞれに優れた点があり、優劣がつけにくかったというのが正直な感想となります。

また、委員の中には先ほどもお話ししましたが、学年により、この学年はこの会社というように教科書を選べばなどという声上がるほど選択には非常に迷いました。ただ、社会科における問題解決的に学習を進める上で優れた点が多く、児童にとっても、教師にとっても使用しやすいということで東京書籍「新しい社会」がよいのではないかと考え、委員会としては東京書籍を選定したいと思います。よろしくお願いいたします。

○ 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、ご意見がある方、挙手をお願いいたします。

小山委員、お願いします。

○ 小山委員 信州大学の小山です。

いろいろ細かく調べていただいてありがとうございます。

先ほど弘法山の写真、非常に子どもたちも興味持って教科書を開くと思うのですがけれども、特に社会科の教科書は、出版社はみんな47都道府県どういうふう写真を織り込めるかというのを工夫してつくっておられますけれども、それぞれ出版社のところ長野県の中の扱いというのはどんなだったのかというのをちょっと教えていただけるとありがたいなと思います。それもなぜかという、以前の平成16年から22年度の時の社会科教科書として光村図書が採択されたのには、やっぱり長野県内の教材の扱いが非常に厚く扱われたということがあったかと思しますので、そのあたりのデータがあるようでしたら教えていただけたらと思います。

○ 赤羽委員長 ありがとうございます。どの学年、どの教科書にも、長野県は高地の暮らしもありますので、取り扱いが多いかなと思いますが、やはり東京書籍と日本文教出版での扱いが多かったかなというふうに思います。全体のデータとして、細かいところまでは把握しかねますが、委員からの話によると、東京書籍の方が扱いが多かったということなことは聞いております。その程度で申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

○ 伊佐治議長 それでは、赤羽副会長お願いします。

○ 赤羽副会長 説明ありがとうございます。東京書籍を選定されたということですから

ども、例えばイラストなんかはドラえもんと表記してあるとか、とても具体的に報告書が書かれているなど思いました。今日の説明の中になかったですけれども、2の(2)のワイド面や折り込みページを用いた迫力あるイラストとかしっかり描かれています、例えば他社と比べてどこがよかったのかなということをもっと質問したいと思います。

それと、もう一つ、今日、写真という言葉が説明でたくさんありました。やはり先ほど他社の中にカラー化されたという話があったのですけれども、やはり歴史というのは当時白黒だったじゃないですか。やはり子どもたちの学びって、歴史ってそこは白黒でもいいのかとか、いろいろ様々で。私もカラー化も1枚の方がいいかもしれないけれども、この時代を子どもたちが感じ取るというのは写真ってとても大事だと思います。それはちょっと私の感想ですが、最初のところで具体的な場面があったらまた教えていただきたいと思っています。

- 赤羽委員長 ありがとうございます。実は資料に関しては本当に各社工夫してあるところがあります。例えば、東京書籍では、消防車の拡大図を見開きの形で開いたりとか、文教出版の場合には、スーパーマーケットのイラストを全体で拡大したりとか、各社が重点的に考えるところでの違いが結構ありました。ただ、この単元はこうだというのがなくて、その会社の配慮によって違うというのは正直なところですが、東京書籍は全体的に見開きの形が多いかなというふうには思いました。

それから、もう一つの写真についてですね。確かにカラー化についてはちょっと議論もありましたが、当時の状況や様子を十分に把握してから、その52点の写真をカラー化したということで、やはり社会の委員の中でも、これは白黒の方がいいのか、カラーの方がいいのか議論がありました。授業をする際、やっぱりカラーにすることで、子どもたちにとって今の自分たちと当時の自分たちと比較できる。白黒だと時代的には前の時代だというのは分かるんですが、自分たちとその当時の子どもたちの暮らしというのが縁遠くなってしまふ。例えば、戦時中は僕たちとはもう違う世界、社会なのだということですが、実はそんなこともないという考え方もありますし、それをカラー化することで、子どもたちにとっては、かなり新鮮な感情を覚えるということもあるので、委員によっては、これを使った授業をぜひやりたいということも出てきたりしたのは事実です。

- 伊佐治議長 ほかにご意見、ご質問ありますでしょうか。百瀬委員どうぞ。
- 百瀬委員 朝日村の百瀬と申します。

委員の皆さんの考えていただいた東京書籍でいいかなと私も思っていますけれども、ほ

かの他社よりも、やはり学習課題を据えて、それをきちんと追究していく流れが非常に自然な流れになっていると読みました。問題解決的な学習が社会科の基本的な学習の流れになると思うのですけれども、自然な学習問題を設定して、そして調べ、まとめて、それを広げていくという流れは非常によく分かりやすかったと思います。

それから、先ほど発表の中にもありましたけれども、どの会社もいろんな人にインタビューしていくという形を取っているのですが、東京書籍の挟み方というか、インタビューというか、人の声を聞き、地域の人々の声を聞くというやり方が非常に的確な捉え方で、中身も読んでいて面白いという感じを受けました。それで、やはりそういった意味で、人と触れ合う学びを大切にしている。地域で暮らすおばあちゃんがどんなことを考えながら暮らしているのかというような、本当に人と接していくという、その場で自分が聞いているような感じで生かしているというのが他社にはなかったように思いました。

ちょっと質問させていただきたいのですが、社会科の見方・考え方を広げるとか、つかませる、身につけるといったような形で、現在の社会科の目標がありますが、それが東京書籍あるいは教育出版とか他の会社よりもよかった。東京書籍がよかったというところは何か視点はあるのでしょうか。

それともう一つ、6年生の教科書が分冊になっているのですが、上下ではなかったように思いますけれども、これは現場の先生方にとって扱い方のしやすさというか、その点でどんな評価があったのか、そこら辺もしご検討されていれば教えていただければと思います。

以上です。

- 赤羽委員長 ありがとうございます。先に社会的な見方・考え方ということですが、やはりこれは授業の中でもまだなかなか難しいところはあるのですが、先ほどもあったドラえもののイラストであったように、タケコプター、それからタイムマシンというような時間的な何に目をつけながら自分で見ていけばよいかというあたりのところについては、やはり東京書籍の一番よさがあるのかなというふうに思います。

ただ、日本文教出版の方も空間、時間、関係の3つの、2の(3)になりますが、見方・考え方コーナーということで設定しながら、6年のところでは、子どもたちの出てきた見方・考え方を評価するというようなこともやっていて、まだこの辺はこれから教科書会社が研究していく中でより安定していくのかなというところは感じさせられるところでありました。

それから、申し訳ありません。もう1点は、何だったでしょうか。

- 百瀬委員 6年生の分冊がございます。上下ではなかったようです。
- 赤羽委員長 そうですね。分冊で上下ではないのですが、2冊同時には配られるという形、これは委員の方々でもやはりここ分かれまして、1冊の方が特に修学旅行の時期によって、政治・経済のところを先から入るか、歴史から入るかというのは結構学校によって今違うところもあります。そうすると1冊であって、入りやすきで入った方がいいとかという観点もあったのですが、やはり分かれていて、お互いに関連し合っただけの方がいいのではないかというのが、委員の全体的な意見としてはありました。ただ、分冊じゃなくて1冊にすることで逆に両方学べる、両方行き来しながら学べるという考えもあって、そこら辺のところ、2冊同時には来るし、どこから始めてもいいのではという意見もあり、大丈夫かなということは話題になりました。
- 伊佐治議長 ほかにご意見、ご質問ございますか。
よろしいでしょうか。ありがとうございます。
それでは、社会につきましては東京書籍に決定ということでご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 ありがとうございます。
それでは、社会については東京書籍に決定いたします。
それでは、赤羽委員長、引き続き地図についてということで、若干ちょっと時間が押しぎみになっております。
- 赤羽委員長 はい、分かりました。すみません、よろしく願いいたします。
では、続いて、地図の方にいきたいと思います。
では、やはり14ページ、15ページをご覧ください。1の方になります。
では、順番の方になりますが、帝国書院の方から先に説明の方をさせていただけたらと思います。

まず、1と2の(1)の観点からということで、生活科の学習でも簡単には行ってくるのですが、地図学習の主に初学となる3年生に配慮し、導入部分では読み取りやすい精選された簡易地図から構成されています。その後、高学年向けの調査学習に活用できる詳細な地図へと幅広く掲載されています。大きく表現されたものから、細かく表現されたものへと発達段階に合わせて使用できるのが特徴かと思えます。また、全体的に写真やイラストも読み取りやすい内容になっております。

帝国書院の最初の方の7ページから10ページにかけて、こういうふうに3年生に向けた地図のガイダンスの授業というページがありました。生活科の学習で探検をする中で、簡単な地図みたいなものはつくるかと思うのですが、この左のところ、斜め上から見た学校の周りの様子、真上から見た学校の周りの様子、それから右下、真上から見た町の様子、写真になって地図で表した町の様子というふうに、地図学習の最初のところの扱いがやはり地図でつまずいてしまうお子さんたちのために、すごく丁寧に、重点的に使われているかなというのがあります。

それから、2の(3)の観点から、等高段彩表現という、これは土地の高さによる色分けと、土地利用表現の彩色が明瞭で、山は手描きふうの表現も入れ、小学生が地理的な特色を捉えやすくなっています。特に土地利用の配色については、通常は4色が多いのですが、5色用いられており、より明確に色分けする配慮がなされることで、例で言うと長野県の産地と盆地の違いも色の違いから理解することができますということで、これも資料をご覧ください。このようにちょっと見ればそんなに変わらないかなというふうに思うのですが、しかも松本周辺の図が、色の別がありまして、これは中学生とか一般の地図になるともうちょっと完全な等高線で分けていると、黒というか茶色っぽいところの山が多くなりまして、分かりにくいんですが、小学生向けにやはり等高線の段彩の表現を変えてありまして、小学生が見て分かりやすい地図にしてあるというのが帝国書院の特徴になります。

それから、3の(1)の観点になります。地図の序盤、広く見渡す地図では、都道府県の地形や産業の情報を精選して掲載しています。それに対して、各地方地図ではより詳細な情報が記載されており、こちらが発達段階に応じた配列構成となっています。これもご覧ください。

北海道の地図ですが、左の上の地図が広く見渡す地図ということで、情報がとても少なく、3年生でも山地に何がつくられているかとか、色の具合大体分かると。右下の77、78ページと同じ地図では地形もかなり色分けされており、情報も都市も多くなっており、絵も少なくなっていて、同じ地図帳の中で2つの地図があって、各学年の発達段階に応じて分かりやすい表現がされています。

それから、3の(3)の観点になりますが、4年生の学習内容に自然災害や防災について扱う単元があり、本地図帳では自然災害の分布図や写真で実際の災害の様子を掲載しています。イラストや防災マップも掲載されていて、防災意識をより高めることができるよう配慮されています。

地図の中に防災学習ということで、いわゆるフィリピン海プレート、太平洋プレート、ユーラシアプレート、北アメリカプレートがあって、地震が多くなる日本というものを地図の上から分かるような配慮もされているということになっております。

では、次に、東京書籍の地図帳の方のよさを話したいというふうに思います。

2の(2)の観点として、児童に主体的な学びを促すために、「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」のコーナーを各ページに設けています。地図上で様々な問いや作業に取り組むことで地図への関心や学びの意欲を高める工夫がなされていますということで、このところ、右にあります、ホップ・ステップ・マップでジャンプということで、日本全体地図の横のところに、大阪から東京の直線距離を測ろう。19レベル、2のレベル、20だとレベル3になるというような、地図の中で遊び心ではないのですが、ゲーム的なより発展的な学びが地図帳を見ながらできるように工夫されたものもあります。これは帝国書院さんでもありましたが、やはり東京書籍さんの方がこのつくりはちょっと面白いというか、子どもたちがページをめくるために手厚いような形でできるのかなというふうに思います。

また、2の(4)の観点として、文字が大きめに記載されているのが大きな特徴というふうになります。ゴシック系のUDフォントが取り入れるなど配慮が十分になされています。地名表記には白い縁取りが施されていることが見やすさの点での大きな配慮となっているということが東京書籍さんの地図になります。主なものとしてはそんなところで、以上のことを踏まえて、特に地図部分が見やすく、どのお子さんにも理解しやすいというように、児童への十分配慮がなされ、教師の社会科授業を進めていく過程においても帝国書院の地図帳がよいのではないかと考え、選ばせていただきました。

以上になります。

○ 伊佐治議長 委員長、ありがとうございました。

それでは、ご意見のある方、挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、ご質問、ご意見がないようですので、地図については帝国書院ということで決定したいと思います。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

○ 伊佐治議長 それでは、地図は帝国書院に決定をいたします。

赤羽委員長、ありがとうございました。

それでは、先ほど申しあげました第1グループがこれで一旦終わりとなります。

3分ほど休憩をさせていただきます。

〔休 憩〕

- 伊佐治議長 それでは、よろしいでしょうか、再開をしたいと思います。

では、ここからは算数ということになります。資料の16ページということになりますが、内山委員長、報告をお願いいたします。

- 内山委員長 算数調査研究委員会委員長の三郷小学校の内山一好です。よろしくお願います。教科書をたくさん持ってきましたので、実物で見ていただければと思いますが、よろしくお願います。

本委員会では6つの教科書会社の教科書について調査研究をさせていただきました。どの教科書も大変工夫されており、順位をつけることが大変難しかったわけですが、本調査研究委員会では、啓林館の教科書が最も優れているという判断をさせていただきました。

21ページをお開きください。

啓林館の教科書のよさについて説明させていただきます。

教科の目標からの配慮についてです。啓林館の教科書は、特に数学的に考える資質・能力を育成するため、数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的に問題解決ができるように大変工夫されているという点です。2年生以上の教科書に「教科書の使い方」というページがあり、どのように学習を進めたらよいのかということが段階的によく分かるように整理されております。例えば3年生の教科書ですが、「じゅんび」から始まり、「学習の入り口」「今日の学習」「もっと練習」「学習の出口」「学びをつなげよう」というような、こういう一連のものが全部の教科書にあって、教科書をこんなふうに使っていけばいいですよということが示されています。

また、単元の終わりには、「確かめよう」「振り返ろう」「やってみよう」というページが用意されていて、基礎的、基本的な知識を習得し、子どもたちが算数で学んだことを生活や新たな学習に生かすことができるように工夫されていると言えます。

続いて、児童の学習活動の配慮の点からです。教科書の初めに、「算数のとびら」というページが用意されています。3年生の教科書ですが、「どんな問題かな、自分で考えよう」「みんなで話し合おう」「確かめよう」「振り返ろう」というような一連の問題解決的な学習がここでもできるようになっております。どの授業についてもこのような流れで授業を進めることができます。また、全ての主問題に目当てと、それに対応したまとめが設定され、児童が見通しを持ったり、振り返って考えたりすることができるように大変工

夫されているということが分かります。また、巻末には「もっと練習」のページが用意され、子どもたちが自学自習できる問題が掲載され、習熟度に応じて繰り返し取り組むことができるように配慮されているところがよきであると思いました。

続いて、学習指導への配慮です。特に5と6の道具の使い方や作図の仕方などは、手順を細かく分割した連続写真や動画等のコンテンツを用いて指導に生かせるように大変工夫されているという点です。啓林館の教科書にはQRコンテンツが1,614個用意されています。例えば2年生の、初めて2年生が立体を扱うところですが、まだ直方体だとか立方体だとか、そういうことばは出てこないのですが、こういう箱の形の頂点が幾つあるかとか辺が幾つあるかということを実際のコンテンツで動画の中で立体を動かしながら幾つあるのか数えることができるように工夫されています。また、3年生の円の学習では、コンパスの使い方が右利き用と左利き用が用意されているということも分かりました。また、4年生の垂直と平行の線の書き方ですが、教科書ではこんなふうに垂直、並行とって、順番によって写真で解説しているわけですが、これについても動画で大変分かりやすく解説をしています。

また、幼保小の接続を意識して、「スタートブック」という大変分かりやすい冊子が用意されています。これは1年生が初めて算数の教科書を持つときに、このようなどとも見やすく、分かりやすく、ノートと教科書が1つになったような、そんな形で使われていくようなものですが、こんな工夫も見られました。

また、6年生の教科書では、6年のまとめの算数で学習したことを総復習し、これから学習した算数がどのように数学につながっていくのか。例えば正負の計算がちらっと出てきたりだとか、1次関数の考え方がちらっと出てきたりだとか、そんなふうに中学校への学びに続けられるような、そんな工夫もされています。

以上の理由から啓林館の教科書が児童にとっても、教える私たちにとっても最も優れている教科書であると判断いたしました。

続いて、他の教科書会社の特徴的なことを発表します。

初めに、東京書籍ですが、全体的な特徴としては、ページ番号を白抜き文字にして、色の数を削減したりして、視覚的な刺激を軽減しているという点です。また、全学年によって使用する色数が少なく、淡い配色になっています。ほかの教科書は、割といろんな色を使っているのですが、東京書籍は割と淡い色を使っています。子どもたちが学習に集中しやすいような、そんな工夫がされているのかなと思います。また、東京書籍の方もQRコ

ンテンツが非常に豊富にあり、特に東京書籍で力を入れているのがオープニングムービーとかシミュレーションの機能などです。例えば3年生の「どんな形かな」という單元ですが、ここにオープニングムービーと書いてあり、QRコンテンツがあります。これを子どもたちが読みこむと、動画が始まって、單元全体を見通すようなそんな動画が流れてきます。これが全部の單元ではありませんが、幾つかの單元に用意されていて、これは東京書籍のいいところだなということを感じました。重さについて考えてみる單元では、男の子が出てきて、いろいろと問題を投げかけてくれて、單元全体を見通していかれるような、そんな工夫がされています。

続いて、大日本図書です。大日本図書の教科書は、6社で唯一、2学年以上の教科書が学年1冊の合本になっています。ほかは全部上下と分かれています。この大日本図書だけは2年、3年、4年生が合本になっています。合本にするよさというのは、やっぱり振り返りがしやすく、前の方をちょっと復習しようとかということができると思います。2年生にとってこの教科書が重いかどうかということは賛否両論あるかなと思いますが、そんな工夫があります。大日本図書も豊富にデジタルコンテンツが用意されていて、特に大日本図書は、その前の前学年までの学習内容を参照できたりだとか、振り返りや学び直しがしやすくなったりというところが特徴だと思います。また、巻頭に「算数の大切な考え方」ということで、今まで算数で見つけてきた見方・考え方を巻末にこういうひらめきアイテムシールみたいなのがあって、これを学習して、これをこのページに貼りつけていくわけですね。そうすると、子どもたちがこんな見方・考え方ができるようになったよということを自覚できたり、その見方・考え方を蓄積したりするのに役に立つのではないかなと、こういうよさがありました。

続いて、学校図書です。学校図書は、他の教科書にないこのような大きさをしています。ほかの教科書は全部こういうB判ですが、AB判みたいな横に長いのが特徴です。この利点を生かし、非常に内容が多いという感じがします。1時間の中の内容が数ページにわたる構成を取り入れて、児童の多様な考え方や興味に触れることができるように大変工夫されているなと思いました。1時間、1時間が1ページという制限がなくて、数ページにわたって1時間を構成していることが多いのも特徴です。そのため、多様な子どもの考え方を紹介して触れ合うことができるようにしています。例えば5年生の面積の單元ですが、まず教科書のよさを生かした非常に図が大きい、分かりやすいというか。さらにその考え方を普通だったら2つとか3つしか載せられないものを、この会社はその考え方を4つ載

せることができ、子どもたちの多様な考えを引き出すというような、そんな工夫も見られています。

それと、学校図書のもう1個の特徴としては、6年生の教科書について、ほかの教科書は巻末に全部についているのですが、算数でまとめみみたいな単元が必ずあります。それを学校図書は1冊の問題集みたいにしていてということも学校図書の1つの特徴かなと思います。

続いて、教育出版です。教育出版の特徴は、児童の問いの連続で学習を進めていけるように構成されています。例えば問題発見の解決の過程を「はてな」から「なるほど」、「だったら」という吹き出しを用いて、子どもの言葉で示されており、問い続ける力が育まれ、より工夫されていると思います。また、目的意識や数学的な見方・考え方の顕在化を図り、数学的な活動の楽しさや数学のよさが実感できるようにするために、「つながるミカタ」とか「つながるミカタプラス」などが用意されています。どういうものかといいますと、つながるミカタのプラスというのは、4年の下の教科書に載っているのですが、L字型の面積を次のような見方をすると面積の公式を使って考えることができ、この分けて考える方法と全体からひく方法があるのですが、それを 99×8 の計算とも同じような見方でできるよとか、 180 度より角度の大きい測り方も足す考えもできるし、引く考えもできるよというような、そんな数学的な見方をつなげていく工夫はこの教科書会社の特徴です。

最後に、日本文教出版です。この教科書の優れている点は、2の3と4の「使ってみよう」や「算数ジャンプ」「もっとジャンプ」で、他領域や他教科と日常生活を結びつけた総合的な問題を取り扱って、探求的な内容に取り組めるように工夫されている点です。また、単元の前に「次の学習のために」というものを設けて、次の単元に関連した既習事項の確認ができるように工夫されていると思います。

これは「直方体や立方体のかさを表そう」という単元に入る前に、もう一度今までやってきた長方形だとか正方形の面積の求め方だとか、こういうL字型の面積の求め方を一応おさらいしてから新しい単元に入れるように、そんな工夫がされています。

それぞれの教科書会社もよさや特徴、本当にたくさんあるわけですがけれども、総合的に判断をさせていただいて、本委員会では啓林館の教科書が最も優れているという判断をさせていただきました。

以上です。

- 伊佐治議長 内山委員長、ありがとうございました。

それでは、ご質問、ご意見のある方、挙手をお願いします。小山先生、お願いします。

- 小山委員 ありがとうございました。非常に細かくご説明いただきました。

ちょっと専門的な話になって申し訳ありませんが、社会もそうですけれども、算数の教科書は、それぞれ教科書会社の構成方法が執筆者の論理、空間的な認識過程における考え方が物すごく強く反映されているかと思います。その辺について、今日ご説明いただいたのは、教科書という目に見える可視化されているところでの評価の内容をいただいたわけですけれども、多分それを評価するに当たって、執筆者等の教育観というか、その理念的なところを含めてご判断いただいたのか、その辺のところをちょっと教えていただけたらありがたいなと思います。その辺なぜかという、今、啓林館を僕は別に否定するわけじゃなくて、啓林館を使っていらっしゃる先生方にお話をいただいたときに、啓林館ってやっぱり算数が得意な先生にとってはすごくいい教科書だよというお話をいつもいただきます。だけど、ちょっと数学苦手という自分にとってはちょっと使いづらいというようなお話もいただくことはあるので、ちょっとその辺もし情報があればお聞かせいただけたらと思います。

- 内山委員長 執筆者については一切考えずに選定させていただきました。今、先生がおっしゃるように、啓林館は数学専門の先生がどちらかという使いやすいというか、問題解決に向けた学習がやりやすいとか、そういうところはあると思いますけれども、やっぱり以前と比べると、いろんな先生が使っても分かりやすいとか、先ほど説明してなかったのですが、例えば学習問題があって、目当てがあって、みんなで考えようときて、ここで振り返りがというようなこの一連の流れがどの授業でも同じパターンになっているところが大分使いやすいと感じておりますし、また、学びのまとめの確かめようと振り返ろうとやってみようとするのですが、この確かめようが評価の観点でいくと、1番が知識、理解、技能の評価です。2番、3番が思考力・判断力・表現力の評価の観点になっています。まとめのところで評価がしやすくなっているというのも使いやすさかなという意見が出されていました。

以上です。

- 伊佐治議長 ほかにご意見、ご質問ございますか。よろしいですか。

それでは、算数につきましては啓林館ということで決定をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 それでは、啓林館に決定をいたします。
それでは、次に、理科ということでお願いいたします。
内山委員長、ありがとうございました。
理科については6社から見本が送付されています。では、原先生、お願いいたします。
- 原委員長 理科の委員長の源池小学校の原修司と申します。よろしくお願いいたします。
理科の資料、23ページからになっておりますので、ご覧いただければと思います。
理科の研究委員会では、6社の教科書を検討いたしました。各出版社、重点を置く部分には軽重はあるものの、それぞれが理科の目標を十分満たしている教科書でありました。
調査するに当たり、3つの採択基準の12観点から吟味し、それに加えて理科を学ぶ楽しさが実感できるかどうか、自然と触れ合い、郷土への誇りや愛情を抱くことができるかということも大事にしながら選定いたしました。その結果、信州教育出版社の「楽しい理科」を選定するという判断に至りました。
それでは、信州教育出版社を推薦する理由をご説明いたします。
28ページです。お願いします。
全体的な特色として、長野県の特色ある自然や身近にある素材を多く取り入れております。2の(2)ですけれども、児童が身近な事象から問題を見だし、親しみやすく学習できるように工夫されておりました。この写真は安曇野市の堀金村道の駅付近のヒマワリ畑です。子どもたちもよく知っていて、行ったことがあるという話をたくさん聞いています。
これは4年生の「水のすがたと温度の管理」ですけれども、諏訪湖の御渡りの写真です。これを見ると、なぜこんなことが起きるのか、子どもたちはもう素直に不思議だな、どうしてだろうという疑問を持ちます。
これは6年生の「大地のつくりと変化」という単元ですが、この地学の分野では県内の多くの教材が取り上げています。これは四賀の化石館ですけれども、このようなもう身近な本当に教材を示すことによって、子どもたちが非常に興味・関心を高める、そんな見解ができます。このように多くの単元で地域の自然や身近な事象を生かした素材の教材化がなされています。
2の(2)ですけれども、また自然の事物や現象に直接働きかけ、五感や体感を通した気づきを大切に扱っています。例えば理科を初めて学ぶ3年生の最初の単元に「太陽と影を調べよう」という単元があるのですが、1年生の生活科から理科になるわけですけれども、

そのつながりを大切にしながら、例えばここでは影踏みなどの遊びから入って、太陽の光の温かさを肌で感じながら、五感や体感を通した気づきを大切に扱っています。そのことによって発達段階に応じて児童の意識の流れを大切にしながら、理科の見方・考え方を働かせて、問題を科学的に解決できる、そんな要因がされています。信州教育出版の教科書は自然の中へ入り込み、自然の不思議を見つけ出す。そして理科が楽しいと実感できるように考えられた教科書だというふうに考えました。

対面配列から見ますと、3の1あるいは4、全体的な特色ですけれども、季節や生物の成育状況を考慮した配列となっております。最適な時期に学習、観察・実験・飼育・栽培などの活動が行われるように配慮されています。これは、4年生は生き物を扱うことが多いのですが、生き物の暮らしについて、春、夏、秋、冬、こんなふうに長野県の地域性や児童の生活経験、実感を重視して、自然事象への理解と定着が図られるように構成されています。

3の(3)ですけれども、これは四賀の化石館の資料です。信州教育出版は児童が自然に直接働きかけることを大切にしている教科書ですが、資料も豊富に掲載されています。写真や絵図など、学習を補完する資料が用意されています。随所にQRコードもあり、子どもがタブレット等で資料を検索することができます。多くの学校でこの四賀の化石館あるいは化石採集に出かけるわけですけれども、こんなふうに山の中で鯨の化石が出るなどということは子どもたちの興味・関心を本当に高める、そんな資料となっています。また、子どもたちの気づきや疑問、それから既有経験を想起して、話し合う活動を大切に扱っています。また、このスライドのあるように、自分の考えを自分の言葉や絵や、そういうもので表現したり、まとめたりする言語活動を大事に扱っています。

3の(6)ですが、単元での学習を整理し、まとめる場として「振り返ろう」のページを設定し、そこには先ほどもあったように、手書き風のノートも載せられています。児童がこんなふうを書くであろうということを児童の目線に立ってつくられています。観察・実験のまとめや考察をする際の視点が明確になり、自分の学びを振り返ることができるように工夫されています。

他社と比べると、挿絵や写真、図表等について、全体的にやや地味な印象を受けます。しかし、各単元の初めに県内で撮影された大きな写真が使われており、細かい箇所はズームアップされた写真、図等を用いるなど、見やすさにも配慮されています。教材、資料等、長野県のを多く使用されており、学習を通して児童が郷土への誇りや愛情を抱くこと

にもつながるものと考えております。調査しました6社とも本当に理科の目標を達成している本当にいい教科書でありましたが、以上の調査研究結果から、本地区では信州教育出版社の「楽しい理科」を使用した学習が望ましいと考え、推薦いたします。

続きまして、他の5社の教科書のよさ、優れている点をご説明いたします。

まず、東京書籍ですけれども、全体的な特色として、問題解決の流れが一目で分かるようにレイアウトされています。問題解決の過程を1本のラインでつないで、学びの流れが示されています。その学習に必要な見方・考え方など、ポイントとなる部分がすぐに分かるように工夫されています。

2の(3)ですが、思考場面における会話例を具体的に示し、対話的な学びを豊かに展開できるよう工夫されていました。

2の(5)ですが、写真、図表等については大変見やすく工夫されていて、自然の美しさを感じながら学習できるように配慮されていました。A4判で写真や図や絵が大きく鮮明で、配色や文字の大きさも児童にとって見やすいようになっておりました。しかしながら、単元配列から見ますと、例えば3年生では、生物分野の最初の単元にしてはいますが、長野県ではその生物の育成環境よりちょっとずれていたりする面があり、単元を一部変える必要も出てくると思われます。また、長野県の地域の素材が欲しいなというふうにも感じました。

次に、大日本図書ですけれども、2の(5)にありますように、紙面をA4に大判化し、ダイナミックな写真で導入されています。話合いの場面のイラストや豊富な情報から児童の関心意欲が高まるよう工夫されていました。単元の冒頭では、身近な話題や生活体験を想起する写真を取り上げ、新たな疑問が持てるようにし、理科の見方・考え方を働かせて、問題解決に当たれるよう配慮されていました。また、特色として、SDGsを随所に登場させることで、興味・関心を持たせたり、もう一つの特色として、実験方法が1つではなくて、複数の方向を示して選ばせたり、主体的に取り組めるような工夫がされておりました。

次に、学校図書についてです。働かせる理科の見方・考え方は何なのか。どのような資質、能力をつけたいのかが明記され、子どもたちが見通しを持って学習に取り組めるように配慮されていました。自分の考えを基に話し合う場面も随所に設けられ、学びが深まっていく工夫がされていました。ページ一面に実験方法の詳しい説明がイラスト入りで描かれ、実験に入る前の計画がしっかり立てられるように構成されていました。

3の(2)にあるように、「もっと知りたい」のコーナーが随所であり、単元や学年、教科を越えた関連や実生活とのつながりが示されている、そんな特色があります。

次に、教育出版ですけれども、2の(2)、3の(2)にありますように、身近な問題や不思議さを感じさせる写真や対話を基に、児童の疑問から学習が始まるように構成されていました。問題解決の流れを線で示し、理科で働かせたい見方・考え方について、「見方のカギ」あるいは「考え方のカギ」というコーナーを示し、登場人物の会話から対話的な学習が進むように工夫されています。

また、3の(3)にありますように、探究の過程で、「予想しよう」「計画しよう」という項を入れ、理科で大切にしている根拠になる予想を立てる力を育て、見通しを持たせた上で実験・観察に取り組むような配慮がされていました。

最後に、啓林館です。2の(3)にありますように、問題解決の過程を「見つける」「調べる」「まとめ」の3段階の学びのサイクルを示し、学びが積み重なるように工夫されました。実験をうまく進めるための工夫や、この特色として、新しい実験方法を積極的に取り入れている、そんな特色がありました。

3の(2)にある「理科の広場」や「活用しよう」「くらしとリンク」などで、学習内容と実生活のつながりを多く取り扱っていました。

また、3の(4)にありますように、STEAM（スティーム）教育、例えばSがサイエンス、Tはテクノロジーというような、科学、技術、ものづくり、芸術、算数とリンクした教科書づくりを行っており、教科横断的に授業の興味を広げる、そんなのが啓林館の特色でございました。

以上でございます。

- 伊佐治議長 原委員長、ありがとうございました。

それでは、ご質問、ご意見のある方、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

小山先生、お願いします。

- 小山委員 信州教育出版社の教科書、長野県の現場の先生方におつくりいただいている教科書ということで、今説明にあったように、気候の変化に合わせて単元配列を進めていかれるという、非常に生命の分野に関してはすごく工夫されていて、全国的にも非常に子どもに合った教科書と言われているところですが、それ以外のエネルギー、粒子に関する単元の配列とか、その辺については何か特色とかはあったでしょうか。その辺ちょっともしありましたら教えていただけたらと思います。

○ 原委員長 単元配列ではないですが、例えば実験方法ですと、従来のものをそのまま使っている場面もあり、例えばもっと最新の器具や実験方法があるのではないかというご意見は委員の皆様から出たところでございます。ただ、全体的に見ると、長野県で使う地域素材のよさというのは、最後、東京書籍との比較になったのですけれども、東京書籍という意見もあったのですが、多くの委員の皆様はやはり信教のところを推される先生が多かったというのがございました。

○ 伊佐治議長 ほかにご意見、ご質問ございますか。

それでは、ご意見ほかにございませんので、理科については信州教育出版社ということでご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

○ 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、理科については信州教育出版社に決定をいたします。

ありがとうございました。

それでは、続きまして、生活に移ります。生活については7社からということで見本が送付されています。

大変時間が押しております。申し訳ありません。先生、説明につきましては少しご用意いただいたものを簡略化してお願いいたします。

○ 戸辺委員長 はい、承知しました。

○ 伊佐治議長 申し訳ありません。

○ 戸辺委員長 生活科調査研究委員会の委員長、宗賀小学校の戸辺修です。よろしくお願いいたします。

生活科の調査研究委員会では全7社の教科書について協議検討をさせていただきました。どの教科書も大変工夫されていて、それぞれの会社の特徴がありまして、選定には苦労しましたが、総合的に判断しまして、委員会として推薦する教科書は信州教育出版社が発行する「あおぞら」及び「そよかぜ」とさせていただきます。

推薦理由としては大きく3つです。1つ目は、長野県に根差した教育が大変多く取り上げられているという点です。2つ目が、子どもの学びの道筋、その子ならではの学びのプロセスを大事にした構成となっている点です。そして、3つ目ですが、内容の配列、内容の扱い、学習活動への有意性等についてバランスよく整えられているという点になります。

それでは、3つの選定理由について具体的に説明したいと思います。

1つ目の長野県に根差した材ということですが、子どもたちにとって身近な親しみやすい信州ならではの行事や文化、風土に着目し、地域の人たちや地域の自然と関わる活動も魅力的に展開されています。

スライドをご覧ください。

例えば長野県の特徴である公民館の主催する行事に着目する題材が取り上げられています。本題材では、地域の達人が営む伝統的な獅子舞で、獅子舞をやる地域の歴史に触れたり、実際に獅子舞を演じたりすることを通して、子どもたちは伝統的に受け継がれてきている獅子舞の意味や価値を自分ごととして学んでいけるように配慮された構成となっております。また、郷土への愛着が深まっていくように組み合わせられています。

2つ目ですが、子どもの学びの道筋を大事に構成されているという点についてですが、事象との出会いと関わりから生まれる子どもの問いや願い、また、それらを解決しようと探求し続けるその子、その子の学びのプロセスを大事にした息の長い題材が展開されています。例えば身近な植物の栽培について学ぶ題材にアサガオがあります。1年生といえどアサガオ、アサガオといえど1年生というように、どの出版社でも扱われている共通題材ですが、他社の教科書ではアサガオの正しい育て方の軸足があって、全ての子どもたちが一律に教材業者の提供する鉢を用いて、種のまき方、水のあげ方、支柱のつくり方、種の取り方などの方法論が展開されています。信州教育出版社では、使用する鉢1つを取ってみても、その子、その子がこだわっている問いや願いを基に、色や形、大きさの異なる多様な鉢が使われております。そのページになります。さらに学習の終末では、和紙を用いたの灯笼づくりや絵手紙の制作、リースづくり、種のプレゼントといった実感を伴う多様な体験活動を位置づけています。そのような活動に没頭する中で、それぞれの子どもたちがアサガオとの関わりをたどり直しながら、アサガオとの別れ、あるいはアサガオへの感謝といった学びのステージが展開されています。このことは学習指導要領にも示されている主体的、対話的で深い学びにつながるとともに、図工や国語、算数などの他教科と関連づけながら学ぶ教科等横断的な学びにもつながる大事なポイントであると考察しています。例えば、種を数えて袋詰めする作業は算数につながる。それから、リースづくりは図工、絵手紙づくりは図工、国語との関連性、つながる学びになっていると考えられます。

それから、動物の飼育を学習する題材では、他社にない大型動物との暮らしを紹介し、息の長い題材として、1年生から2年生にかけてかけがえのない命をめぐる様々な問題を自分ごととして解決していく体験活動を重ねながら、共同的な学びを深めていけるように

工夫されております。その学びの深まりは動物と接する子どもの豊かな表情をタイミングよく映し出した写真から、その感動が伝わってきます。例えばこの写真をご覧ください。この1枚の写真から子どもとヤギの関わりのありようや学びの深まりの様子が伝わってきます。これらの学びの足跡が見えてくるような写真は他社が掲載している写真ではなかなか見られませんでした。信州教育出版社の特徴となっております。

最後に、3つ目の題材の配列、内容の扱い、学習活動への有意性のバランスですが、どの調査観点を窓口に見ても大変充実しており、バランスの取れた教科書となっております。

続きまして、その他6社の教科書について委員会で研究調査した特色を端的に説明させていただきます。

信州教育出版社と同様に、題材の配列、内容の扱い、学習活動への有意性の調査観点において工夫があると見られ、バランスよく整理されているのが啓林館と教育出版です。生活科の目標である思いや願いの実現に向けて自ら考え、行動し、自分ごととして人・物・事と関わり合う点においては、両社とも1年間の季節の変化を主な題材として取り上げ、学びが深められるように工夫されていました。

続きまして、東京書籍と大日本図書がイラストと吹き出しが効果的に使われ、授業の活動への意欲が喚起されるように工夫されている、配慮されていることが特色となっております。また、学校図書につきましては、実際の活動の様子を豊富な写真で紹介し、授業の活動の見通しを持って主体的に学習できるように工夫されておりました。

最後、光村図書ですが、こちらにつきましては、どの題材も導入、展開、振り返りの学習観点が位置づけられ、児童自らの学習のプロセスを明示しながら、安心して学べるように配慮されておりました。また、求められる資質、能力が見える化して整備し、振り返りの仕方の手がかりとなるよう工夫されているのが特色でした。

最後に、各社ともQRコードが掲載されており、必要に応じて動画やアニメーション、写真を紹介することで児童の個別最適な学びをサポートできるように配慮されているとともに、ICTの効果的な活動が図られていることが今回の大きな特色になっておりました。

以上をもちまして生活科研究調査委員会の報告を終わります。

○ 伊佐治議長 戸辺委員長、ありがとうございました。

それでは、ご質問、ご意見のある方、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、ご意見ないようですので、生活については信州教育出版ということでご異議

ありませんでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、信州教育出版社に決定いたします。

- 戸辺委員長 ありがとうございます。

- 伊佐治議長 戸辺委員長、ありがとうございます。

それでは、音楽に移りたいと思います。音楽については2社ということで送付されております。

すみません、時間が押している関係で、休憩はなしで進めさせていただいています。ご用のある方は、途中で席を外していただいて構いませんので、ご協力をお願いいたします。

それでは、松田委員長、用意ができましたらお願いいたします。

- 松田委員長 皆さん、こんにちは。音楽科調査研究委員長の芳川小学校の松田真理と申します。よろしくをお願いいたします。

音楽科の委員会では教育出版社株式会社の「音楽のおくりもの」、そして、株式会社教育芸術社の「小学生の音楽」の2冊の教科書につきまして、自分たちが小学校の1年生になったつもりで歌ったり、それから、音楽を専門とする音楽専科ではなく、どちらかというと音楽を得意としない学級担任の立場に立ったりしながら、どちらが本地区の教科用図書として選定するにふさわしいか調査研究を進めてまいりました。その結果、本委員会として推薦したい教科書は教育芸術社「小学生の音楽」になります。

それでは、教育芸術社の「小学生の音楽」を選ばせていただいた理由につきまして大きく3点ご説明申し上げます。

40ページをお開きください。

1つ目の理由は、子どもたちの学習活動への配慮は極めて適切であるということです。調査研究結果報告書の2の(1)にありますように、小学生の音楽は楽曲や歌詞の内容、音域などについて、子どもの心身の発達段階に応じて十分に考慮されており、楽譜や文字の大きさ、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの演奏技能についても発達段階を考慮した無理のないステップが踏まれています。一例として、小学校に入学した1年生が初めて鍵盤ハーモニカでドの音と出会う題材について紹介いたします。

写真、スライドをご覧ください。

教材「鍵盤ハーモニカとなかよし」では、ホースと息で遊ぼうと、まずはホースだけを

使っていろいろな息の出し方を体験します。その後、いろいろな音を出していきます。そして、いよいよスライドにありますように、「ドとソの音と友達になりましょう」という教材で、歌いながら鍵盤ハーモニカのドとソの音に出会います。楽曲は「どんぐりさんのおうち」です。「どんぐりさんのおうち、どこでしょう。2つのお山の左側」とあります。初めて鍵盤ハーモニカを手にした子どもたちはこの歌を楽しく何回も口ずさむことで、どんぐりさんのおうちは2つのお山の左側、つまり2か所高くなっている黒い鍵盤の左側にドの場所があることを自然に知っていくこととなります。鍵盤ハーモニカのドとの初めての感動的な出会いです。「どんぐりさんのおうち」を知った子どもたちは、次に、ソ、「そらまめさんのおうち」を知り、ソの音と友達になっていくのです。ドとソの音と友達になる。少し不思議な感じはありますが、これが小学校1年生、6歳、7歳の子どもの発達段階になります。こうしてどんぐりさんやそらまめさんのおうちを見つけたり、歌ったりすることで、子どもたちはドとソと友達になり、次はレモンさんやミカンさんのおうちも訪ね、次第に鍵盤ハーモニカをドレミで吹いたり、ドレミで歌ったりすることができるようになっていくのです。

次の例を紹介します。2の(5)にありますように、「小学生の音楽」の大きな特徴は、子どもたちが音楽する喜びや楽しさを紙面から感じ取ることができるよう、ナビゲーターであるムーブくんと主に4人の子どものキャラクターを登場させています。右側にいますのがムーブくん、そして、4人のキャラクターの子どもたちです。こちらは4年生の「旋律の重なりを感じ取ろう」という題材で、「ファランドール」という教材を聞いている様子です。ムーブくんが「それぞれの旋律が聞こえたら立ち上がって聞こう」とナビゲートすると、キャラクターの子どもたちが目をつぶって曲を聴きながら、曲の感じが変わったところで立ったり座ったりしています。このイラストにより、子どもたちは自分たちの活動が容易にイメージでき、曲を聴きながら曲想の変化に気づくことができます。このムーブくん、そして子どものキャラクターは6年間登場しており、それぞれの学習内容に応じて表情やしぐさを変えたり、活動している様子を表したりすることにより、全ての子どもたちがキャラクターに親しみながら言語活動の充実と音楽科における協働的な学びや、対話的な学びにつなげることが期待できます。

2つ目の理由としましては、学習指導への配慮についても極めて適切になされていることです。3の(1)にありますように、「小学生の音楽」は題材を中心に組み立てており、各教材は題材という1つのテーマの中で構成され、学習指導要領に示されている各学年の目

標及び内容を踏まえています。各学年、全学年を通して系統的・発展的に組織されているため、音楽が示す領域である歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材がバランスよく配置され、基礎的・基本的な内容が無理なく身につくよう配列されています。

また、3の(3)にありますように、全ての活動文には、「見つける」「考える」「歌う」「演奏する」「つくる」のマークが示されています。これらの学習活動を相互に関わらせ、何を学ぶか、何ができるようになるかが分かりやすく示され、楽しみながら音楽の学びと向き合い、「考える」は思考力・判断力・表現力を、「見つける」は知識を、「歌う」「演奏する」「つくる」は技能の資質・能力を身につけられるよう配慮されています。

3つ目の理由としましては、全体を通して子どもも授業者も見通しを持って学習ができるよう工夫されていることです。3の(5)にありますように、「小学生の音楽」では1つの題材ごとのまとまりを分かりやすくし、それぞれの学年の各教材が目立つようにキーカラーで色分けされ、学習をサポートする写真やイラストが精選して配置され、音楽の楽しさが伝わるように工夫されています。1つの例として、「あたまを雲の上に出し」で始まる3年の共通教材である「ふじ山」をご紹介します。雄大ですばらしい富士山の写真です。1番から2番の歌詞を読みますと、そのとおりの写真なのです。歌詞は縦書きで見やすくなるよう、写真の構図に配慮され、歌詞や文章を写真中に入れるときに無地の部分に配置したり、背景を白くしたりすることで読みやすさも確保しています。

さらに3の(6)にありますように、題材の終末には必ずこの題材で学んだことを振り返ることができる「まとめ」が掲載され、子どもが何を学んだのか、何ができるようになったのか等について振り返り、自己評価をしながら次の題材に出会えるような工夫がなされています。

以上、これらの3つの理由から教育芸術社の「小学生の音楽」は、全ての子どもたちが音楽の楽しさを味わい、系統的な題材構成により無理なく6年間の学びを積み重ねることができる教科書であると判断いたしました。

それでは、教育出版の「音楽のおくりもの」についてご説明申し上げます。

39ページをお開きください。

「音楽のおくりもの」は、「小学生の音楽」と同様に、子どもたちが音楽に親しめるよう、様々な工夫があり、まさに子どもたちにすてきな音楽の贈り物を届けようという思いがこもった教科書であると言えます。「音楽のおくりもの」の大きな特徴の1つは、2の(4)にありますように、豊かな音楽活動を楽しむ題材や教材が豊富にあり、楽曲の

イメージに合うイラストとともに、楽曲のよさや美しさを感じできるような工夫がされていることです。また、3の(2)にありますように、子どもたちの学びたいという気持ちを大切に育むよう、内容の関連や発展を生かした学習展開が工夫され、3の(5)にありますように、共通教材の歌詞のページや織り込みのワイドな写真、イラスト、挿絵等も楽曲の背景をつかめるような工夫が随所であり、子どもたちがさらに音楽を好きになり、自ら学習に向かえるようデザインされています。そして、4にもありますように、「音楽のおくりもの」「さんぽ」の2曲は全ての学年に掲載し、全校で楽しく歌ったり、合奏ができたりのよう工夫されています。

このように教育出版の「音楽のおくりもの」にも楽しい教材がたくさん掲載され、音楽科の目標を達成するために必要な内容が的確に掲載されております。その点も十分考慮しながら、2社の教科書を比較検討し、教科書の採択基準の観点及び体裁等を鑑みた結果、冒頭にも申しましたように、本調査研究委員会としましては教育芸術社「小学生の音楽」を推薦したいと考えます。

以上をもちまして音楽科の発表を終わります。

- 伊佐治議長 松田委員長、ありがとうございました。

それでは、ご意見、ご質問がありましたお願いいたします。小山委員どうぞ。

- 小山委員 すごく楽しい音楽の授業になりそうだなというお話を伺いました。今、ご推薦いただいた教育芸術社の教科書の方で、共通教材以外の教材の何か特色とかありましたら教えていただきたいのと、現在諸課題に関わる教科横断的な内容に関わってどのような工夫がされているのかもちょっと教えていただけたらありがたいと思います。

- 松田委員長 ご質問ありがとうございます。共通教材以外の教材につきまして、今度の教科書でまた新曲が幾つか掲載されておまして、新進の作曲家の先生の新しい曲ということで、子どもたちが本当に音楽に親しめるように学年の発達段階に応じて新曲が出ているということが工夫されていると思います。また、教科横断的な視点につきましては、例えば歌詞の内容で、ちょっと今すぐにお示しできないのですが、やはり子どもたちの心を耕す、道徳的な要素、人権教育を大事にした歌詞が盛り込まれ、それから、またSDGs等も今話題になっておりますが、音楽の中でも盛り込まれているということを調査研究委員会の中で確かめ合いました。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

- 伊佐治議長 ほかにご意見、ご質問ございますか。よろしいですか。

それでは、音楽につきましては教育芸術社に決定するというごことでご異議ありませんで

しょうか。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、音楽につきましては教育芸術社に決定をいたしました。松田委員長、ありがとうございました。

- 松田委員長 ありがとうございました。

- 伊佐治議長 それでは、続いて、図画工作に移りたいと思います。

図画工作についても2社が送付をされております。

それでは、杓掛委員長、用意ができましたらお願いいたします。

- 杓掛委員長 三郷中学校長、杓掛隆です。よろしくお願いします。

図画工作は開隆堂出版と日本文教出版の2社です。調査研究委員会では日本文教出版の教科書が優れていると評価させていただきました。日本文教出版の特徴を5点お話しします。

報告書43ページをご覧ください。

1点目、2の(3)「実際の授業を取材して撮影した情景写真の多用により、児童の好奇心や意欲を持てるよう配慮されている」についてです。

画面をご覧ください。

この造形遊びの題材では、見開き2ページの中に3つの授業の取組みが掲載されています。箱、紙コップ、洗濯バサミのそれぞれの素材で展開した授業の取組みについてです。様々な素材の題材例を掲載することで、子どもたちの発想を豊かに膨らめたり、教師の素材に対する考え方を多様にしたりすることができる、これが日本文教出版の大きな特徴と言えます。

2点目は、2の(5)「絵の題材を線で囲わないことや、立体の作品には影をつけることなどで児童にとって見やすい工夫がされている」についてです。

画面をご覧ください。

この粘土の作品の下に影がついているのがお分かりですかね。このように児童に粘土の立体感や重量感などが伝わりやすいように工夫されています。また、絵画作品も周りの四角い線をなくしていること、これも美的な感覚を大切にする教科の特性からも優れている点と言えます。

3点目は、3の(2)「表現と鑑賞を関連させている」点です。

画面をご覧ください。

この端っこに小さく「りったい・かんしょう」とあります。全ての題材に鑑賞を位置づけています。どの題材にも鑑賞の面からの目標も掲げられています。さらにそこに虫眼鏡のマークがついています。「いいなと思う箱の使い方はどうかな」などと投げかけて、児童が鑑賞できるように配慮しています。

4点目の「ねらいと評価の一体化」についてもこの場面でお話しします。振り返りに「どんな箱の使い方ができたかな」とあります。「何をつくったかな」ではありません。この題材のねらいは、「箱や材料を工夫して使う」なので、振り返りではこの箱の使い方について問うています。ねらいと評価の一体化です。資質や能力を中心に考える教科の本質に迫る考え方があります。

最後にまとめです。4、全体的な特徴に記しました「長野県の美術館の取組みや美術作品などが取り上げてられている」点です。1、2上から5、6下までの6冊中4冊に長野県立美術館や飯田市美術博物館の取組みや作品などが掲載され、児童に親しみやすいものとなっています。

以上の5点が日本文教出版の特徴です。

続いて、開隆堂出版の特徴を3点申しあげます。

報告書42ページをご覧ください。

1点目、1、教科目標からの配慮をご覧ください。

教科目標の学びに向かう力、人間性を「心を開いて楽しく活動し、友達と関わり、協力する力」と読み替えている点です。このように児童に分かりやすくしていることが特徴と言えます。

2点目は、2の(3)「図版に番号を振っている」ことです。例えば教師が教科書で説明するときに、2番の番号を見てくださいなどと分かりやすく伝えることができます。このことは3の(5)「複雑の題材では製作過程順に番号がつけられている」ことにも表れています。これらの点では指導がしやすい教科書と言えます。

3点目、3の(3)「地域の人や地域の伝統工芸との共同活動が示されている」ということです。学校と地域のつながりにまで題材が及んでいるという意味では、先進性に優れた教科書ということが出来ます。

以上3点が開隆堂出版の特徴です。

調査研究委員会では題材の多用性や表現の豊かさ、鑑賞の位置づけ方や資質・能力ベ

スの考え方に優れていると考え、総合的に判断して日本文教出版が優れていると評価させていただきます。

以上です。

- 伊佐治議長 沓掛委員長、ありがとうございました。

それでは、ご意見、ご質問ございますか。挙手をお願いします。

はい、小山委員。

- 小山委員 簡単に。今、最後のところで比較された開隆堂のところでは教科横断的な学びの工夫がされているという記載があります。では、日本文教出版の方は、今、造形教育の部分についてはすごく詳しくご説明いただいたのですけれども、多分、教科との関連性の中でも図画工作の学びへのつながりというのはどんなふうに構成されたか教えていただけたらと思います。

- 沓掛委員長 開隆堂出版はものすごく丁寧な印象です。全ての題材に、算数と結びつけようとか、国語と結びつけようとか示されています。図工の教科の立場から言わせていただくと、そこまでくっつけていいのか。図画工作を大事にしてもらいたいのので、そこで完結してやっぱり題材は題材のよさとして楽しんでほしいのです。日本文教出版の方も当然教科の関連づけがあるものには、そういう題材については関連づけて書いてあります。

- 伊佐治議長 ほかにご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、図画工作につきましては日本文教出版ということでご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、日本文教出版に決定をいたします。沓掛委員長、ありがとうございました。

時間が押しておりますので、引き続き進めさせていただきます。

それでは、次に、家庭といたしますが、家庭についても2社から教科書が送付をされております。

それでは、宮澤委員長、用意ができましたらお願いいたします。

- 宮澤委員長 会田中学校の宮澤陽子と申します。よろしくお願ひいたします。

小学校家庭科の教科書について報告させていただきます。

調査対象の検定済み教科書は、東京書籍、開隆堂出版の2社です。調査の結果、開隆堂出版の評価が高くなりました。2社それぞれを比較しながら発表させていただきます。

1の評価の目標に関わる観点から調査をいたしましたところ、2社とも学習指導要領で示された目標や内容を的確に捉え、発達段階に応じ、実践的、体験的な活動を取り入れながら、日常生活に必要な基礎的な理解や生活をよりよくしようと工夫する資質能力を育てられるように構成されております。

次に、2の児童の学習活動への配慮に関わる観点から見ますと、内容的には2社ともに発達段階や難易度を考慮し、児童の思考の流れに沿った系統的な配列がなされています。2の(2)にございますように、両社とも問題解決的な学習展開が重視されており、東京書籍は「見つめよう」「計画しよう・実践しよう」「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3ステップで、開隆堂出版は、「気づく・見つける」「わかる・できる」「生かす・深める」の3段階を踏み、それぞれのサイクルを繰り返すことで定着し、思考、判断、表現の力を高められるよう配慮されています。

学習の有意性に関わっての、開隆堂出版の特徴といたしましては、主に3点の優れた特徴があります。1点目は、実習や制作の全体工程が横流れのデザインで統一され、誰もが迷わず視覚的に捉えられるUDの配慮がされています。また、巻末の食品分類表では、折りたたまれている部分を広げることで、どのページの学習の際にも資料としてすぐに活用できる学習作業効率に関わる工夫がなされています。

2点目はQRコードの内容についてです。東京書籍は194コンテンツの中にこのようなトライシートという導入時の課題発見に役立つデジタル思考ツールが用意されていることが特徴です。1つのコンテンツに豊富な情報が詰まっていることが特徴であることにに対し、開隆堂出版のコンテンツ数は300を超え、一つ一つの動画時間が短く編集されているため、児童は必要な技能習得のための画像を必要に応じて繰り返し視聴できるというよさがあります。つまり児童の必要感に応じて、主体的かつ個別最適化された学習が構想しやすいという点は高い評価につながりました。

3点目は題材配列についてです。東京書籍は5学年で履修すること、6学年で履修することが明確に示されて、5・6年次に持続可能な社会を営む消費者としての学習が1つの題材としてくぐられ、扱われています。対しまして、開隆堂出版では、持続可能な社会の構築、SDGsの視点を各学年の題材で関連させながら繰り返し扱い、主体的な態度を育成するよう配列されています。生活を営む主体者としての基礎形成期、今日的な課題の習熟に開隆堂出版の題材配列が望ましいという調査結果となりました。

次に、学習指導への配慮についてです。開隆堂出版の優れている点を3点申しあげます。

1点目は、3の(3)に関わって、見方・考え方を意識化し、働かせる手助けが配慮されているという点です。見方・考え方をを用いることで家庭生活をよりよく工夫することを両社とも促していることに差はありませんが、東京書籍は生活を見つめる視点として、題材冒頭でのみ「家庭科の窓」に家庭科における4つの見方・考え方を示しています。開隆堂出版では、働かせる見方・考え方を題材のめあてと併記しつつ、さらに題材冒頭だけでなく、必要なところでこのようなキャラクターについて見方・考え方を意識させるよう配慮されています。

2点目は、3の(1)題材の関連性について。開隆堂出版の題材数が20に細分化され、基礎的・基本的な事項を繰り返し扱えるよう工夫されているという点です。具体的には衣生活、住生活では、実際の季節と合わせ履修する時期を考慮し、家庭での実践につなげやすくする工夫をしています。また、他者との共生や持続可能な社会の構築につながる内容を繰り返し配置するよう意図され、児童の実態や意欲に配慮した取扱いがなされていることが特徴です。

3点目は、3の(5)時代の進展やニーズに関わって、開隆堂出版ではキャリア教育の視点から、家庭科に関係する仕事や取組みを行っている人物21人を随所に幅広く紹介し、児童に向けたメッセージが掲載されている特徴があります。伝統を未来につなげること、地球環境の保全や共生社会に関わるものなど、持続可能な社会につながる取組みを行う人物に焦点を当て、地域社会に学びを開く意図が感じられます。

最後に、全体的な特徴です。東京書籍の全体的な特徴といたしまして、食物アレルギーの症状について新設され、触れられているという点、また、3の(6)に関わり、まとめや評価の観点について、各ステップと題材全体を終末時に振り返る成長の記録が設けられ、児童が自己の成長を実感し、児童自らが評価できるよう工夫されていることが挙げられます。また、題材配列に関わって、履修する同一の関連した題材を5・6学年で並列させ、同時期に学べる配慮をしているため、5・6年複式学級による合同での授業対応がしやすい配慮がありました。

開隆堂出版では、こちらのように小学校から中学校への技術・家庭科学習へとイメージが広げやすいページが設けられている点が挙げられます。小学校で学んだことを生かし、さらなる課題へと学びが広がり、膨らむ助けをしています。また、この図のように、1品の実習計画でとどまることなく、実際の家庭生活を想定し、同時に作業工程を並行させたタイムテーブルを示すなど、基礎的・基本的な学習内容が生きた力として活用する力が高

まっているかに着目した部分に工夫が多く見られます。実生活に即して変化する状況や課題に応じて主体的な活用ができる技能として習熟・定着することが意識されています。そして、家庭科の見方・考え方の1つである生活・文化の視点で開隆堂は郷土食や伝統的な食文化、風呂敷、裂き織り、風鈴など、受け継がれている生活文化が多数示されている点が優れた特徴となっております。

以上、総合的に踏まえ、家庭科の教科書について開隆堂出版を推薦する調査報告とさせていただきます。

以上です。

- 伊佐治議長 宮澤委員長、ありがとうございました。

それでは、委員の皆さん、ご質問、ご意見ありましたら挙手をお願いいたします。

- 小山委員 ちょっと教えてください。非常に配列のところを配慮されて選択されたというお話をいただきましたが、家庭科は社会科と同様に、同心円拡大方式で、社会科は社会機能について学んでいくし、家庭科は自分たちの家庭との関連の中で生き方を学んでいくという中で、先ほど、スモールステップの配列がとてもいいというお話をいただいたんですが、その際に、東京書籍は「とんとんとん」と階段式に入って行ってよろしくないという話だったのですが、先ほどの社会科の説明の中でも百瀬委員さんから質問が出たように、6年生では政治・経済を先に扱う。公民的分野を先に扱うのか、歴史分野なのかということもいろいろあるわけですが、5年生、6年生の社会科で、当面この松本平の中で展開されるであろう学習と、この家庭科との関連性とか、その辺のところは何か採択されずに配慮されたとか、そんなところはあったのでしょうか。ちょっとそういった質問です。

- 宮澤委員長 社会科との関連については、特別に配慮はしてございません。ただ、家庭科におきましては、衣食住それぞれの生活が関連し合って営まれているという実際がありますので、授業においてもそれらの関連性を大事にしながら、カリキュラムを構想し、弾力的に授業で扱えるように、そんな点が開隆堂出版で優れているということで話させていただきました。

- 伊佐治議長 ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、ほかにご意見ありませんので、家庭については開隆堂出版ということでご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

○ 伊佐治議長 それでは、開隆堂出版で決定いたします。宮澤委員長、ありがとうございました。

○ 宮澤委員長 ありがとうございました。

では、続きまして、体育保健に移らせていただきます。

宮崎委員長、ご用意ができましたらお願いいたします。

○ 宮崎委員長 筑北小学校の宮崎聡と申します。よろしく申し上げます。

保健の教科書選定について報告いたします。

資料47ページから申し上げます。

保健は東京書籍、大日本図書、大修館書店、文教社、光文書院、Gakkenの6社の教科書について調査研究いたしました。各社とも教科の目標からの配慮については、身近な生活の中から課題を見つけ、自分の考えを表現したり、他者と対話したりしながら、知識や技能、思考力、判断力、表現力等が身につくように配慮がされていました。

次に、児童の学習活動への配慮と学習指導への配慮、全体的な特色について委員会で最も教科書としてふさわしいとした東京書籍から説明いたします。

48ページです。

東京書籍は2の(4)重要な語句を解説で詳しく説明したり、資料で関連する内容を扱ったりするなど、児童が理解しやすいよう配慮がされていました。

2の(5)大きな写真、吹き出しのあるイラストや漫画を用いての問題提示により、児童の学習意欲を高められるよう工夫がされていました。重要語句を太字で示したり、文節改行を行ったりすることで、どの児童にも読みやすい工夫がされていました。

続きまして、3の(3)導入を1ページの大きな写真やイラストで行い、ページをめくると学習課題が示される構成になっており、児童の主体的な学びにつながるよう工夫がされていました。

3の(5)章の初めに目標に向けてどのように学習が進んでいくのかイラストで示されており、学習の見通しが持てるよう配慮がされていました。また、各単元末の資料が豊富で、見やすく、分かりやすいものが多く取り入れられていました。

3の(6)自分の気づきや考え、まとめ等を記入する欄が各ステップに配置され、児童の学びの様子が1冊の中に記録・確認できるよう工夫がされていました。記述欄と穴埋め問題を適切に配置しており、各観点の評価がしやすいように工夫がされていました。さらに全体的な特色として、1時間の学習が4ページ、4ステップで構成され、ステップ1の後に

ページをめくると学習課題が提示される仕組みになっており、主体的に課題解決に取り組めるよう工夫がされていました。また、ステップ4では、簡単な穴埋め問題が設定され、知識の定着を確かめられるように工夫がされていました。具体的に見ていただきますと、こちらは「病気の予防」という大きな単元の1つ目の小単元、「病気の起こり方」の単元ですけれども、まず導入の1ページ目に、大きな写真を用いて課題把握ができるようになっています。このとき、次のページからある学習課題や解決方法、内容の深まりのページがめくらないと見られないようになっています。このページからこのページへ進むということです。さらにもう1回めくると、単元のまとめや記入できるように構成されています。このような構成は6社の中で東京書籍だけです。児童の主体的な課題解決に取り組める工夫というのはこういうようなことです。これらのことから、東京書籍の教科書が最も優れていると考えました。

次に、資料の順に他社について優れている点について説明します。

まず、大日本図書では、2の(5)章の導入のイラストを細分化し、学習内容に合わせて考えることができ、学習意欲を喚起するように配慮がされていました。全体的な特色としては、折り込みカードを準備し、自分の生活の振り返りから課題をつかむまでの導入を大事にしようとする配慮がされていました。各章の終末には記号と記述によるまとめができるよう工夫化されている教科書でした。

次に、大修館書店です。2の(2)1時間の学習の最後に保健クイズが設定されており、児童の学習意欲を喚起し、主体的な学びを支える工夫がされていました。

2の(4)導入、課題解決活動、まとめの各段階で見出しの色やマークが分けられ、学習の流れを把握できるよう工夫がされていました。全体的な特色として、淡い色合いでの編成となっており、視覚的刺激が少なく、見やすい。資料提示のコーナーでは資料が見開き1ページで準備され、より発展的な学習ができるよう配慮がされていました。毎時間の最後に保健クイズのQRコードがあり、学習意欲を喚起する工夫が見られる教科書でした。

次に、文教社です。2の(5)印象に残したい言葉や数字を太字で示し、学習意欲を高められるよう配慮がされていました。全体的な特色としては、毎時間の終わりに「もう一歩先の自分へ」の欄や、章末に〇〇宣言の欄が設けられ、自身の生活へ目を向けられる工夫がされていました。

次に、光文書院です。2の(2)「見つけよう」の活動を設定し、初めに自分の生活を振り返り、問題意識を高めてから課題を提示することで、主体的に学習に取り組めるよう工夫

がされていました。

2の(3)「やってみよう」の活動を設定することで、体育と関連させて実感を伴って理解できるよう配慮がされていました。また、体育授業だけでなく、日常の生活でも取り組める内容となっていました。

2の(5)黒板のイラストの中に、学習課題を設けることでの確に学習課題をつかみ、学習意欲を喚起するよう配慮がされていました。

3の(6)、各章末に学習のまとめがあり、自己評価したり、自分の生活に生かしたいことを考えたりする活動ができるよう工夫がされていました。全体的な特色としては、1時間が見開き2ページで構成され、学習の流れや進め方が分かりやすく、黒板、イラストを利用した学習の課題、掲載がとても見やすい教科書でした。各章末には簡単な穴埋め問題が設定されており、知識及び技能を習得できるよう工夫がされていました。

最後に、Gakkenです。2の(2)章の導入に身近な生活場面の写真を用いて、自己の生活に重ねて問いを設定できるようにし、振り返る、話し合う等の活動により、主体的、対話的に学習できるよう工夫がされていました。

3の(1)巻末ページに次学年や中学校での学習内容が示され、系統化が図られていました。全体的な特色として、記入欄を多く設け、ワークブック的な活用ができる。1冊の教科書で完結できるよう工夫がされていました。

以上、保健の教科書6社について調査研究した結果を報告させていただきました。

- 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、ご質問、ご意見のある方、挙手をお願いいたします。

- 碓井委員 塩尻市の碓井と申します。

選択基準の1の教科からの目標の配慮について、どの教科書についても全く同じ内容が書かれているかなと思います。そして、そのことについて説明でも少し触れていただきました。そこについてはそれぞれの教科書の特徴的な配慮事項が記されると私は考えますけれども、なぜ同じにしたのか、その理由をもう少しお聞きしたいと思います。よろしくお願いたします。

- 宮崎委員長 教科の目標からの配慮については、各社とも目標についての配慮は十分されているということも調査研究のところで共通して出されましたので、内容の優劣については、児童への配慮とか学習の配慮とかというところで差をつけるようにし、教科の目標からについては各社とも同様な結果とさせていただきます。

- 碓井委員 そのことについて私は1に関連して、2とか3とか4につながってくる部分が多いのではないかと、そんなふうに思いますので、少し理解に苦しみます。ほかの選択基準、2、3、4の部分については配慮事項や特色が検討されていて、その部分や教科書の選択については異論があるわけではありませんけれども、ここの部分についてはもう少し掘り下げていただいてもよかったですのではないかと思います。

以上です。

- 伊佐治議長 ただいま1の教科の目標からの配慮についての表記といたしますか、評価が全く同じなのはいかがなものかというご意見でした。それに関連してでも結構ですが、ほかにご意見、ご質問のある方お願いいたします。この報告書は最終的には各教育委員会で協議をして、審議内容を皆さんに説明していくということになってきますので、もしこのところについてももう少し踏み込んだご意見がある方はここで出していきたいと思えます。いかがでしょうか。

一応委員長の説明としては、この採点基準の教科の目標からの配慮としては全て同じに評価をしたというご説明でした。いかがでしょうか。それから、その他でも結構です。

では、よろしいでしょうか。今のもう少し配慮が必要だったのではないかと。この表記を変えるかどうかということはどうですか。先生方の評価としては、ここは同列に評価をしたということでしたが、いかがでしょうか。

- 碓井委員 私としては十分納得するそういう内容ではありませんけれども、研究委員会の方でそのようにされたという結論を出されたということであれば、それはそれとして尊重していきたいと思えます。

- 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、ほかにご意見がなければ、こちらの体育保健については東京書籍ということに異議はありませんでしょうか。よろしいですか。こちらは初めて前回と会社が変わっているということになります。よろしいですね。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 それでは、体育保健については東京書籍に決定ということにさせていただきます。委員長、ありがとうございます。
- 宮寄委員長 ありがとうございます。
- 伊佐治議長 それでは、あと2種目、2教科ということになりますが、外国語（英語）について、伊藤委員長、お願いいたします。

○ 伊藤委員長 それでは、外国語になります。よろしくお願いいたします。

委員長の麻績小学校の伊藤尊夫と申します。

最初に、委員会で検討し、最も評価の高かった教科書、画面にもございますが、光村図書「Here We Go!」について説明をさせていただきます。どの出版社の教科書につきましても優れた点があり、その1点だけで比べれば、これから紹介する光村図書よりも優れている教科書はありましたけれども、他の教科書よりも優れた点が比較的多い光村図書を総合的に判断いたしまして、最も評価の高い教科書とさせていただきました。

それでは、この光村図書の評価の高かったポイントにつきまして、選定理由書の内容に沿って4点申し上げます。

59ページをご覧ください。

1点目は、1、教科の目標からの配慮についてですが、コミュニケーションの目的、導入の状況が明確に示されているという点です。

画面をご覧ください。

左下にある部分が教科書の見開きのページになりますが、その右上のところに黒枠で囲んだ部分があります。その上に拡大してありますけれども、必ず見開きのページ右上に単元で目指すゴールが示されています。1日の生活パターンのやり取りをして「I get up at 6」のように「何時に何をします」という表現ですけれども、このやり取りはどの教科書でも扱います。ですが、ご覧のとおり、何のためにそのやり取りをするのかというところがきちんと明確に書いてあります。「お互いのことをよく知るために」とあります。何のためにその活動をするのか、あるいは、その活動をしてどうするのかというところを明確に示していることがお分かりになるかと思います。また、一つ一つの活動につきましても同様に、例えばこの活動はリスニングの活動ですけれども、この活動では、「すしが好きなりリーがすし職人のカネダさんの1日の生活を尋ねる」と、そういう場面設定がされています。どういう人がなぜその情報を欲しているのかというところがきちんと設定されているのが分かるかと思います。

2点目は、2の児童の学習への配慮についてですが、(5)に「写真や絵の色が明瞭」とあります。絵に関しては登場人物のキャラクターが秀逸です。

画面をご覧ください。

様々な体型で、個性的な表情のキャラクターが並んでいます。これは、全員が全員同じような顔のキャラクターだったり、あるいは標準的な体型ばかりだったりすると、なかなか

か子どもたちは、人物の区別がつきにくく感情移入がしにくいです。ですが、このように個性豊かなキャラクターが出てくることで子どもたちはすぐに親しみを持って、このキャラクターたちの物語に興味を持って知りたくなったり、どんな人なのかなということを知りたくなったりします。

3点目は、3の学習指導への配慮について、(6)に「振り返りの欄があり、明確な観点で評価ができる」とあります。こちらの画面、左上が単元の最後のページの見開きの場面ですけれども、右下の黒枠の部分が評価を書くコーナーになっています。こちらでは単元でつける力が、このように3つ示されていますけれども、単元ごとの評価について、右側にある4段階の顔マークを使って自己評価ができるようになっています。加えて、下のところに工夫したことや次に生かしたいこと等を自由記述で書き込む欄があります。これによって画一的な評価でなく、その子らしさやその子に応じたこれからの支援というようなことを教師が考える一助になっているという評価ができるようになっています。

4点目は、4の全体的な特徴についてですが、来年度から外国語科ではデジタル教科書が導入されて、1人1台のタブレットを使った学習が一層活発になってきます。各教科書会社、デジタル教材の準備を進めておりますけれども、その数には約300から600とかなり差があります。また、デジタル教材が増えると、その教材を見るためのQRコードも増えていくわけですが、QRコードが活動ごとに示されていると、1ページの中に幾つも幾つもQRコードが並ぶということもあり得ます。ですが、光村図書では、600以上のコンテンツをそろえてあるんですけれども、右上、1か所にQRコードを集約し、子どもが操作しやすくなっています。この1つのQRコードから入って、その中でいろいろなコンテンツに行き着けると。そういう点で子どもが操作しやすい、自分のペースで学べる配慮がされているということもこの光村図書の特色と思われれます。

以上4点申しあげて、光村図書の説明を終わります。

この後はほかの教科書についても特徴を一、二点ずつ紹介していきます。

55ページへお戻りください。

東京書籍につきましては、3番の(1)や4番に記述がありますけれども、扱う題材が科学的だったり、社会的だったり、内容が非常に高度です。身の回りの製品にあるメイド・イン何々というところから単元が始まり、世界の国々と日本の関係を考えていくという深まりがあったり、あるいは絶滅危惧種のウミガメの状況を考えて、何ができるか考え合うというような単元もあつたりします。また、デジタルコンテンツも工夫されていて、子ども

の興味を引くものが多いという特徴もあります。

次の開隆堂出版につきましては、3の(3)にあるとおり、スモールステップで簡単な練習活動から子ども同士のやり取りまで何度も同じ表現を繰り返し扱い、習得できるように、細かな学習活動もたくさん用意されているという特色があります。

次の三省堂ですが、2の(2)になりますけれども、1時間の授業の中で話す活動や書く活動が、容易な内容から高度な内容へと段階的に配置されていて、表現力が養われるように工夫されています。また、4番にありますように、学習シートが充実しているということも特色の1つです。

次の教育出版ですが、こちらは2の(3)にあるとおり、巻末の資料が充実しています。切り取ってそのまま掲示できる作品のようになっていまして、お互いの英文を教室の中で見合うということには有効でした。

最後、啓林館につきましては、1の中のほどにコミュニケーションに「大切なことを考える」とありますが、デジタルでモデルの対話を視聴した後に、工夫したことや気づいたことを子どもから聞き出すという活動が必ず設定されています。また、4番にあります英文メーカー、単語を選択していくことで英文がつかれるというデジタルコンテンツなのですが、これは他社にない特色でした。

以上、各教科書の特色を少しずつお話ししましたが、ほかの教科書よりも優れているかなと考えられる点が多かった光村図書「Here We Go!」を最も評価の高かった教科書とさせていただきます。

以上です。

- 伊佐治議長 伊藤委員長、ありがとうございました。

それでは、ご意見、ご質問について挙手をお願いいたします。

よろしいでしょうか。英語の教科書については来年度からデジタル教科書が併用されるということも判断材料の一つとして説明がありました。

ご質問、ご意見よろしいでしょうか。

それでは、ご質問、ご意見ないようですので、外国語、英語についてはただいま提案がありました光村図書出版ということでご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

- 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、光村図書出版に決定をいたします。伊藤委員長、ありがとうございました。

- 伊藤委員長 ありがとうございます。
- 伊佐治議長 それでは、最後の科目になります道徳についてです。
玉水委員長、お願いいたします。6社から送付がされております。
- 玉水委員長 それでは、道徳の調査研究委員長をさせていただきました開智小学校の玉水智香子といます。よろしくお願いいたします。

それでは、お願いします。道徳の調査研究委員会では、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、Gakkenの6社の教科書を比較検討してまいりました。それぞれの出版社のよさがあったり、あと資料もそれぞれ違っていたりして、非常に迷ったのですが、光村図書の教科書を1位として推薦することにいたしました。その理由として4つお話をしたいと思います。

1つは、道徳の目標、「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める」のに適した教科書だからです。選定理由書の1にあるように、光村図書の教科書は各時間の導入で自己の経験を想起させ、最後の「つなげよう」で自分の生活に戻っていくような配慮がされています。

例えば画面の方をご覧ください。2年生の「けんかをしたけど」という資料についてですが、教材の最初に右下の矢印のところですが、友達とけんかをしてしまったとき、あなたはどうしているかなという自己のふだんの生活を想起させるような発問が載っています。そして、最後のところで学習の手引きのところで、「つなげよう」「けんかをして自分から謝れたことはあるかな」と最後自分の生活に戻っていく発問が用意されています。また、物事を多面的・多角的に考えられるようになる手段として、全ての学年の巻頭で、みんなで気持ちよく話し合うためのコツというのが寄せられています。つまり光村図書の教科書は対話的に学ぶことに重きを置き、対話から生まれる気づきを楽しみながら物事を多面的、多角的に捉えられるように大変工夫されているのです。現在、コロナ禍で子どもたちが友達と意見を交わしながら対話的に学ぶということが、今はアフターコロナですが、少し弱くなっているなど感じた私たちは、この光村図書の対話的に学ぶことに重きを置くところを非常に魅力があることだと感じました。

そして、各教材の手引きのところですが、「考えよう」「話し合おう」に沿って道徳的価値に関わる話合いに取り組ませるようになっています。ここに光村図書ならではのよさがあります。光村の教科書は中心発問に向けて、補助発問や中心発問をさらに深める発問が用意されています。授業中はもちろん、児童が各自で学ぶときも手引きに沿って考える

ことで道徳的価値の深まりが期待できるようになっています。さらにこの教科書を選定した理由として、その教材のすばらしさがあります。資料の2の(1)にも書きましたが、この教科書は該当学年の児童たちがふだんの生活で遭遇しそうな問題や悩みを教材として多く取り上げることで児童が登場人物に寄り添って考えやすく、自己の生き方につなげて考えが深まるように配慮されています。また、4にも書きましたが、教材の文章表現が一方的な見方にはならないような配慮がなされています。児童が登場人物の生き方を通して道徳的価値の高まりが感じられるような配慮がなされています。

では、具体的に資料でお伝えします。1年生の教材、「はしのうえのおおかみ」は、実は全ての教科書に載っている教材ですが、教材文が少しずつ違っています。光村図書の教科書は、最初にオオカミが通せんぼうをするシーンで、「いい気持ちになった。」オオカミはいい気持ちですという表現をしています。光村図書だけがこの表現があります。実はオオカミは意地悪をしてしまったのですが、つい意地悪をしてしまうという心の弱い部分がこの表れています。実際の子どもたちの学校生活でも、意地悪をするつもりはないけれども、ついちょっといい気持ちになってやってしまったという場面がある。そのところを考えさせるという意味でこの表現があるのではないかと私たちは考えました。そして、最後の小動物を抱き上げて、渡してあげるシーンでは、前よりずっといい気持ちになったという表現をしています。そういった表現を比較して、オオカミの心情の変化と道徳的価値の高まりを子どもたち自身に考えさせようとしているのがこの教科書です。

また、2の(6)にも示しましたが、挿絵の表情も自然で、子どもたちが登場人物の気持ちを挿絵からの偏った先入観を持たずに、自分なりに考えられるように光村の教科書は配慮がされていました。

あと3点目として、3の(3)のにも書きましたが、現代的な課題として重要とされるいじめ問題や情報モラル等については、教材とコラムを組み合わせたユニットを構成し、より課題を自分ごととして受け止められるような配慮が十分にされています。

最後に、児童への細やかな配慮として、文字が教科書体活字で、行間、余白も含め読みやすく、あと教科書の大きさも唯一B5変形判ということでコンパクトになっており、ちょっとほかの出版社と比べると、こちらがほかの出版社全部ちょっと大きめになっておりますが、少しコンパクトになっていて、授業の中でも最近タブレットやワークシートを用いて行うことが多いので、非常に余裕のあるように配慮されていると考えました。

以上の理由から光村図書の教科書を1位に推薦すると判断いたしました。

続いて、ほかの出版社についても特徴的なことを中心に説明させていただきます。

まず、東京書籍ですが、3の(3)現代的な課題が5つのユニットとして取り上げられています。それは、「安心・安全」「いじめ」「情報」「命」「自分」、各学年の発達段階に即して示されており、児童の日常生活や他教科と関連づけながら考えることができるように大変工夫されています。

次に、教育出版社ですが、教育出版社は2の(3)「問題を解決しよう」というところのコーナーがあり、自ら問題を見つけ、主体的に自分だったらどうするかというように考えられるような発問で思考を促す学習の手引きが適切に配置されています。

また、3の(2)のように、本教材30本のほかに補充教材5本で構成され、補充教材を変えて地域教材や自作教材を扱うなど、地域や児童の実態に応じた指導計画を作成できるように配慮がされています。

次に、日本文教出版ですが、これは2の(3)にある教材の狙いに迫る発問と自分自身を振り返る発問の2点に絞って端的に示し、自己を見つめて学習できるよう大変工夫されています。光村図書と真逆なのですが、この場合、授業では担任が中心発問に迫るような、また補助発問を用意していくということになるかなと思います。

次に、光文書院ですが、光文書院も3の(2)ですね。教材が各学年に40配置されていて、少し多めの配置です。児童の実態、地域性、指導計画に合わせた教材が選択できるように配慮されています。

最後に、Gakkenですが、3の(3)にありますように、生命の尊さを最重点として、全ての学年で3教材用意されています。また、内容項目の異なる教材も連続して学ぶユニットを設け、多面的・多角的に考えが深めるように工夫がされていました。

以上、それぞれの出版社も特徴的なよさがありますが、初めに詳しくお話した光村図書を1位として推薦したいと考えました。

以上です。

- 伊佐治議長 玉水委員長、ありがとうございました。

それでは、委員の皆さん、ご意見、ご質問ございましたら挙手をお願いします。

小柳委員、お願いします。

- 小柳委員 松本市教育委員会の小柳でございます。

報告書の各社の全体的な特色を通して見ますと、6社の教科書のうち、4社については発問について触れられています。光村図書とGakkenについては、発問について触れ

た記述がありません。ただ、Gakkenについては3の(1)に発問について書かれていますけれども、光村図書については報告書中に発問という単語が出てきていません。今説明をお聞きすると、中心発問という点で説明があったように思いますが、ここでいま一度発問について、光村図書の教科書については、委員会ではどのように評価されたのか、教えてください。

○ 玉水委員長 発問については、先ほども少し触れましたが、中心発問がありますが、それに向けて補助発問がなされて、中心発問に迫るように話合いが深まっていくように考え、あと、さらに自分たちの生活に戻っていくような発問が3つ目に用意されて、さらにつなげようにつながっていくという形で、光村図書の教科書は構成されています。なので、自分たちの生活と結びつけて考えられるようにということにはなっておりますが、他者の発問もそういう配慮はありますが、発問の数が少し教科書に載っているという意味では少なかったりするので、その辺はまた事業者の方で発問を工夫していく必要はあるかと思えます。以上です。

○ 小柳委員 そうすると、自分たちの生活に結びつけられていくような発問が構成されているということよろしいですか。

○ 玉水委員長 はい。

○ 小柳委員 ありがとうございます。

○ 伊佐治議長 ほかにはいかがでしょうか。

○ 青柳委員 塩尻市の青柳と申します。

今、「はしのうえのおおかみ」の例が出ていたのですが、そのほかにも「二わのことり」ですとか、「きいろいベンチ」ですとか、3年生の「ヌチヌグスージ いのちのまつり」なんかも同一の教材となっています。文章は違うのですが、同一の題材でイラストも違えば、書きぶりも結構違っていて、提示の仕方も違ったかと思うのですが、そのあたりで、今の「はしのうえのおおかみ」以外に同一教材の比較をされたり、そこで話題になったりしたことがあったら教えてください。

○ 玉水委員長 今出てきたものについて全て比較をしてはおりませんが、1年のところで「かぼちゃのつる」、これも全ての教科書に載っておりましたが、これも多少違っている表現がありまして、これも教科書によってそれぞれ違っているところが少しありました。具体的な記憶がなくて申し訳ないのですが、本文も少し違うところがあって、同じ教材が載っているものは比較をしたうえで、光村図書が一番いいと判断しました。一つ一つにつ

いての記述が手元になく申し訳ありませんが、ただ、資料が同じものでないものも多いと思います。

- 伊佐治議長 別に青柳委員から何かほかの題材のこの違いで気がついた点があればご発表いただければと思います。
- 青柳委員 1年生の「二わのことり」で言うと、ミソサザイの迷いを光村図書の教科書は強調しているのかなと感じました。「ヌチヌグスージ いのちのまつり」の挿絵は、東京書籍ともう1個のところは同じだったけれども、光村図書は命がつながっているという、祖先がいっぱいいるというお話だと思うのですが、人がいっぱいいて、その中にいのちとわかるようにうきあがらせていて、それもわざとらしいと取るか、子どもが感動すると取るかはいろいろだと思いますが、そんな挿絵の工夫と言っていいか、ほかと違う特徴はあったかなと思って、それもトータルして光村図書を選ばれたのは妥当かなというふうに感じています。

○ 玉水委員長 すみませんでした、詳しく説明できなくて。

○ 伊佐治議長 ありがとうございます。

ほかにご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、道徳につきましては光村図書出版ということでご異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」の声〕

○ 伊佐治議長 ありがとうございます。

それでは、光村図書出版に決定をいたします。

これで、予定の時間が過ぎましたが、全教科の選定が終了いたしました。ありがとうございます。

先生方には改めて、短期間で適正かつ公正な調査研究を行っていただきましたこと、改めて感謝申し上げます。

調査研究委員会の委員長の皆さんはご退席をいただければと思います。

〔調査研究委員長 退席〕

○ 伊佐治議長 それでは、協議事項もう一つあります。情報開示日の基本的な考え方についてということで、事務局からまず説明をお願いいたします。

○ 事務局 それでは、情報開示日の基本的な考え方について、着席のまま説明を申しあげますので、よろしく願いいたします。

資料は3ページになります。

まず、第1回協議会でご説明したとおり、当協議会の情報公開につきましては、協議会委員の名簿、協議会会議録、これは抄録になります。調査研究委員会の報告書及び選定結果を情報開示日に合わせて、事務局であります松本市の公式ホームページで公開する予定でございます。調査研究委員の名簿につきましては、情報公開の対象ではありますが、ホームページへの掲載は行わずに、請求があった場合のみ松本市の情報公開請求の手続に従って請求者に開示をいたします。

それでは、3ページ、資料に沿って基本的な考え方のご説明を申し上げます。

まず、教科用図書は無償措置に関する法律施行令の規定によりまして、採択事務の終了日は8月31日までとなっていることから、長野県教育委員会は採択基準、調査の観点等、内容に関するものについては8月31日まで非公開とするとのことですが、採択結果につきましては、8月下旬の教育委員会で採択後、公開予定としているようでございます。

他の協議会の状況につきましては、県教育委員会と同様に、採択基準や調査の観点等、採択の内容に関わるものについては、協議会の事務局が9月1日以降に情報公開を行うこととしていまして、その構成市村の採択結果につきましては、各市町村教育委員会によって公開日が異なっています。

また、市町村の対応に関する長野県教育委員会の見解は、採択地区や各市町村教育委員会の実情に応じまして、それぞれ採択に関する情報開示日を決定していただきたいとのこととございました。

以上の状況から、当協議会の採択事務終了日は8月31日として、内容に関する情報開示は9月1日以降にしたいと考えております。

なお、構成市村の教育委員会における採択結果につきましては、それぞれのご判断にお任せし、9月1日以前に開示することは問題ないと考えております。

また、選定内容に関する情報公開は、事務局である松本市が窓口となり対応いたしますので、各市村の教育委員会におかれましては、9月1日を過ぎるまで資料の取扱いには特にご留意をお願いしたいと思います。

また、出版社や報道機関等から協議会の選定内容に関する問合せ等があった場合につきましては、事務局である松本市教育委員会学校教育課に連絡するというところで回答をお願いしたいと思います。

○ 伊佐治議長 ただいまの説明に対しまして、ご意見、ご質問ございますか。

よろしいでしょうか。

それでは、ただいまご説明がありましたとおり進めるということで、問い合わせがありましたら、松本市教育委員会の学校教育課の方に連絡いただくということでお願いいたします。

細かい内容については9月1日からの配備ということで、それまで本日の会議資料になりますが、8月31日まで非公開となる資料が含まれておりますので、扱いには注意をさせていただきますようお願いをいたします。

全体を通して何かご質問、ご意見ございますか。

小山委員、お願いします。

- 小山委員 意見と言いますか、参考にしていただければというところですが。報告書なのですが、読ませていただきますと、それぞれの多分執筆した先生方、委員の方々の言葉遣いで示され、表現に相違がある部分が多々あるかと思えます。報告書ですので、統一する言葉はやっぱり統一されてまとめられた方がよろしいかなとちょっと感じたので、参考までをお願いいたします。
- 伊佐治議長 具体的に例えばどういうところとかとございましたら。
- 小山委員 例えばQRコードの表記の仕方ですとか、教育用語のところでは先生方がいろんな使い方があり、まちまちで出てきてしまうので、同じことを言っているけれども、何か違う表記になっているというところがあり、もう一回その委員会の中でチェックしていただければと思いますけれども。
- 伊佐治議長 ただいまのご意見ですが、一応全体を通して、例えばQRコードというようなことは統一した方がいいし、各教科の報告書の中でも違っているときがあったというようなご指摘ですか。
- 小山委員 教科で特色があるので、教科の中では、大体統一されていると思います。
- 伊佐治議長 承知しました。ということで事務局、よろしいですか。

ほかにご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、長時間の協議ありがとうございました。全ての協議事項が終了しましたので、議長の任を降ろさせていただきます。会議時間が延びてしまいまして、本当に申し訳ありませんでした。それでは、事務局、お願いいたします。

- 司会 以上をもちまして、令和5年度第2回松塩筑安曇地区教科用図書採択研究協議会を閉会といたします。

本日は長時間にわたりご協議いただきまして誠にありがとうございました。